



Newland AIDC
Scanning Made Simple



Bluetooth対応ポケットバーコードスキャナー

NLS-BS80

NLS-BS80-HC

**User
Guide**

免責事項

© 2016-2019 新大陸自動識別技術有限公司 All rights reserved.

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

スキャナーを解体したり、スキャナーからラベルをはがしたりしないでください。その場合、新大陸自動識別技術有限公司（Newland）の保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

新大陸自動識別技術有限公司（Newland）

中国福建省福州市馬尾区儒江西路1号Aビル3階新大陸科技园 350015

<http://www.newlandaidc.com>

改訂履歴

バージョン	内容	改訂日
V1.0	初版	2015年5月18日
V1.1	2次元スキャンに関する内容を追加しました。	2015年5月19日
V1.2	1.第2章に「USB HID-KBWを有効化/無効化」の機能を追加しました。 2.第3章に「バーコードパラメータ」の内容を追加しました。	2015年9月16日
V1.3	第2章に「USB国別キーボード」の内容を追加しました。 注意: 上記の新機能を利用する場合、ファームウェアのバージョン要件はV1.00.006以降です。	2015年10月13日
V1.4	1.第4章「プリフィックス&サフィックス」を追加しました。 2.付録に「Code ID 表(1次元スキャナー)」と「Code ID 表(2次元スキャナー)」のセクションを追加しました。 注意: 上記の新機能を利用する場合、ファームウェアのバージョン要件はV1.00.011以降です。	2016年1月21日
V1.4.1	「英数字バーコード(1次元スキャナー)」と「バーコードの保存/キャンセル(1次元スキャナー)」セクションのプログラミングバーコードの内容を更新しました。	2016年5月5日
V2.0.0	V2.0.0以降の取扱説明書にNLS-BS8060専用の内容を記述しました。	2016年9月26日
V2.0.1	1.第2章の「製品シリアル番号」と「タイムスタンプ」機能の説明を修正しました。 2.第3章に1次元スキャナーおよび2次元スキャナー向けの「290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト」、「378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト」、「414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト」、「434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト」、「977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト」、「978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト」、「979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト」、「Code 32(イタリア製薬業界用コード)」、「Code 32プリフィックス」、「Code 32 チェックキャラクタの送信」、「Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信」を追加しました。 3.以下のパラメータの初期設定値を変更しました。 Time Stamp (タイムスタンプ) Disabled (無効化) 注意: 上記の新機能を利用する場合、ファームウェアのバージョン要件はV3.00.002以降です。	2016年11月28日

V2.0.2	<p>1. 第2章の「Bluetooth HID機能」のキャラクタ間ディレイの項目に0msオプションを追加しました。</p> <p>2. 第2章のファームウェアのバージョンアップ方法を変更しました。</p> <p>3. 注意: 上記の新機能を利用する場合、ファームウェアのバージョン要件はV3.00.004以降です。</p>	2017年2月14日
--------	---	------------

V2.1.0	<p>1. 第2章に「Bluetooth デバイス名」、「バーコードセパレーター」、「パケットモード」、「ACK/NAK再試行カウント」、「ACK/NAK タイムアウト」機能を追加し、「KBWオプションのキーストローク間ディレイ」を変更しました。</p> <p>2. 第6章データフォーマッタを追加しました。</p> <p>3. 「工場出荷時設定表」を修正し、付録の「桁数バーコード」「バーコードを保存/キャンセル」「シンボロジーID番号」の項目を追加しました。</p> <p>4. 第2章の「USB HID-KBW/ Bluetooth HID のパラメータ」セクションを修正しました。 注意: 上記の新機能を利用するには、ファームウェアバージョン BS80+_V3.00.005 以降が必要です。データフォーマッタ機能については、スキャエンジンのファームウェアバージョン EM1300_BS80_V1.00.000/ EM3396_BS80_V1.00.001 以降も必要です。</p>	2017年10月11日
V2.1.1	<p>第2章に「無効なホストデータへの返信」機能を追加しました。</p> <p>注意: 上記の新機能を利用する場合、ファームウェアのバージョン要件は V3.00.012 以降です。</p>	2019年1月4日
V2.1.2	第1章のLED通知における記述を修正しました。	2019年12月6日
V2.1.3	<p>1. 第2章に「スキャンモード」と「同じバーコードの保存防止」を追加しました。</p> <p>2. Code ID の変更を削除しました。 注意: 上記の新機能を利用する場合、ファームウェアのバージョン要件は V3.00.021 以降です。</p>	2020年2月20日
V2.1.4	<p>1.2次元スキャナーのUPC-Aの項目にプリアンブルなし(システムキャラクタ & 国コード)を追加しました。</p> <p>注意: 上記の新機能を使用するには、ファームウェアバージョン EM3396_BS80_V1.00.003 以降が必要です。</p>	2020年4月8日
V2.1.5	<p>1. BS80-HCの写真を最初のページに追加しました。</p> <p>2. 「はじめに」に BS80-HCの洗浄と消毒のガイドラインを追加しました。</p>	2020年8月12日

	<p>1.第2章の自動電源オフのバーコードと説明を改訂しました。</p> <p>2.第7章「バッチプログラミング」を改訂しました。</p> <p>注意：上記の新機能を使用するには、ファームウェアバージョンBS80_V3.00.023以降が必要です。</p> <p>3.Bluetooth デバイス名の関連記述を修正し、第2章に「Bluetooth Device Name Suffix On (デバイス名サフィックス オン)」と「Bluetooth Device Name Suffix Off (デバイス名サフィックス オフ)」の設定バーコードを追加しました。</p> <p>注意：上記の新機能には、ファームウェアバージョンBS80_V3.00.024以降が必要です。</p> <p>4.第2章にBluetoothのバージョン情報への問い合わせの記述を追加しました。</p> <p>5.第2章に「GS1アプリケーション識別子の送信」、「GS1チェックキャラクタの送信」、「GS1アプリケーション識別子を括弧で囲む」を追加しました。第3章に「GS1 Databar (RSS) のGS1アプリケーション識別子「01」の送信」を削除しました。</p> <p>6.第1章に無効化機能、削除ボタンを追加しました。</p> <p>注意：上記の新機能を使用するには、ファームウェアバージョンBS80_V3.00.026以降が必要です。</p> <p>7.Chapter 2のUSB HID-KBWの「キーストローク間ディレイ」の修正と設定用バーコードの差し替えました。</p> <p>注意：上記の新機能を使用するには、ファームウェアバージョンBS80_V3.00.027以降が必要です。</p>	2020年12月31日
v2.1.7	1.第3章の「白黒反転バーコード」に関する記述を修正しました。	2021年4月1日
v2.1.8	<p>1.第2章 スキャンモード（2次元スキャナ）のデコード間タイムアウト（同じバーコード）の項目を修正しました。</p> <p>2.第4章2次元スキャナーのカスタムサフィックス、カスタムプレフィックス</p>	2021年4月14日

	<p>クス、ストップキャラクタサフィックスを修正しました。</p> <p>3.第2章のスキャンエンジンのファームウェアのアップグレードを削除しました。</p> <p>4.第3章のChinese Sensible コードを修正しました。</p>	
V2.1.9	<p>1.USB HID-KBWのキーストローク間ディレイを修正し、第2章の設定バーコードを差し替えました。</p>	2021年4月23日
V2.2.0	<p>1.第3章と工場出荷時設定表の「MicroQRコード」の初期設定設定を「Disable Micro QR Code (Micro QRを無効化)」に変更しました。</p>	2021年6月18日
V2.2.1	<p>1.第2章の文字エンコードを改訂し、Code Page 932 と Leading Zero を追加しました (ハードウェアバージョン V5.X 以上で対応可能)。</p>	2021年6月28日

目次

改訂履歴	3
はじめに	1
概要	1
各章紹介	1
安全にご利用いただくために	2
BS80-HCの洗浄・消毒ガイド	3
第1章 使用開始	4
概要	4
パッケージ開梱	4
BS80スキャナー	5
各ボタンの機能	6
機能ボタンと削除ボタンの無効化	7
バッテリーの充電	7
BS80をスマートフォン/タブレットへ接続	8
LED表示一覧	11
BS80の電源オン/オフ	12
スキャン方法	12
1次元バーコードをスキャン	12
2次元バーコードをスキャン	13
第2章 システム設定	14
概要	14
工場出荷時設定に戻す	14
スキャンモード(1次元スキャナー)	14
トリガーモード	14
センスモード	15
スキャンモード(2次元スキャナー)	17
トリガーモード	17
センスモード	17
操作モード	22
Bluetoothモード	22
USBモード	24
同じバーコードの保存防止	26

製品情報クエリ	27
フラッシュに保存されたデータをクエリ/削除.....	27
ブザー通知	28
バイブルーション通知	29
Bluetoothペアリングを削除	29
自動/手動電源オフ	30
Bluetoothデバイス名	31
無効のホストデータへの返信	32
バーコードセパレーター	32
パケットモード	33
NAK/ACK 再試行カウント	35
NAK/ACKタイムアウト	35
製品シリアル番号	36
タイムスタンプ	36
データフォーマットを設定.....	37
日時設定	38
USB HID-KBW/ Bluetooth HIDのパラメータ	39
国別キーボードタイプ	39
文字エンコード	42
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	42
文字変換	43
Emulate ALT+キーパッド	43
ファンクションキーマッピング	44
テンキーのエミュレート	45
コードページ	46
Bluetooth HID用インターフィラクタディレイ	47
USB HID-KBW用インターフィラクタディレイ	48
BS80ファームウェアのアップグレード	49
システムファームウェアのアップグレード	49
GS1アプリケーション識別子の送信	52
GS1チェックキャラクタの送信	53
GS1アプリケーション識別子を括弧で囲む	54
第3章 シンボロジー	55
概要	55
1次元スキャナー	55

全てのシンボロジーを有効化/無効化	55
Code 128	56
UCC/EAN-128	58
AIM 128	60
EAN-8	62
EAN-13	66
ISSN	73
ISBN	74
UPC-E	75
UPC-A	79
インタリープド 2 of 5	82
ITF-6	85
ITF-14	86
Deutsche 14	87
Deutsche 12	88
COOP 25 (日本仕様 Matrix 2 of 5)	89
Matrix 2 of 5 (欧洲仕様Matrix 2 of 5)	91
インダストリアル 25	94
スタンダード25	97
Code 39	100
Codabar	105
Code 93	108
Code 11	110
Plessey	113
MSI-Plessey	115
GS1 Databar	118
2次元スキャナー	119
グローバル設定	119
Code 128	121
GS1-128 (UCC/EAN-128)	123
AIM-128	125
EAN-8	127
EAN-13	130
ISSN	137
ISBN	140
UPC-E	142
UPC-A	146

インタリード 2 of 5	149
ITF-14	152
ITF-6	153
Matrix 2 of 5	154
インダストリアル 2 of 5	157
スタンダード 25 (IATA 2 of 5)	160
Code 39	162
Codabar	167
Code 93	171
GS1-Databar (RSS)	174
Code 11	175
Plessey	178
MSI-Plessey	180
PDF 417	183
QRコード	186
データマトリックス	189
Chinese Sensible コード	193
第4章 プリフィックス & サフィックス	195
1次元スキャナー	195
プリフィックスシーケンス	195
カスタムプリフィックス	196
AIM ID プリフィックス	197
Code ID プリフィックス	198
カスタムサフィックス	198
ストップキャラクタサフィックス	200
2次元スキャナー	202
プリフィックスシーケンス	202
カスタムプリフィックス	203
AIM ID プリフィックス	204
Code ID プリフィックス	204
全てのデフォルトのCode IDを復元	205
カスタムサフィックス	209
ストップキャラクタサフィックス	210
第5章 スキャンに関する設定(2次元スキャナー限定)	212
概要	212
デコード範囲	212

全体デコード	212
特定範囲のデコード	212
第6章 データフォーマッタ	215
概要	215
データフォーマットを追加	216
バーコードによるプログラミング	216
シリアルコマンドによるプログラミング	218
データフォーマッタを有効化/無効化	219
非適合エラー通知ブザー	220
データフォーマット選択	220
シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え	221
データフォーマットをクリア	221
データフォーマットをクエリ	222
データフォーマッタコマンドタイプ6	222
送信コマンド	222
移動コマンド	227
検索コマンド	228
その他のコマンド	232
第7章 パッチプログラミング	236
概要	236
付録	237
工場出荷時設定表	237
英数字バーコード (1次元スキヤナー)	255
英数字バーコード (2次元スキヤナー)	257
英数字バーコード	259
バーコードを保存/キャンセル (1次元スキヤナー)	261
バーコードを保存/キャンセル (2次元スキヤナー)	262
保存/キャンセルバーコード	263
AIM ID 表(2次元スキヤナー)	264
参考 : ISO/IEC 15424:2008 情報技術 - 自動認識およびデータキャプチャ技術 - データキャリア	266
識別子 (シンボロジー識別子を含む)	267
Code ID 表(1次元スキヤナー)	267
Code ID 表 (2次元スキヤナー)	268
ASCII 表	269

ASCII ファンクションキーマッピング 表.....	273
Symbology ID Number	275

はじめに

概要

この取扱説明書はNLS-BS80バーコードスキャナー(以下、「**BS80**」または「**スキャナー**」)の設定方法と使用方法を詳しく説明します。

各章紹介

- ◆ 第1章 使用開始 : 本章ではスキャナーを初めて設定、使用に関する情報を説明します。
- ◆ 第2章 システム設定 : 本章ではバーコードのプログラミング手順とシステムパラメータの設定方法を説明します。
- ◆ 第3章 シンボロジー : 本章では各種互換性のあるシンボロジー一覧と、関連するパラメータの設定方法について説明します。
- ◆ 第4章 プリフィックス & サフィックス : 本章ではプリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。
- ◆ 第5章 スキャンに関する設定 : 本章ではスキャナを様々な用途に合った環境設定を行う方法について説明します。
- ◆ 第6章 データフォーマッタ : 高性能データフォーマッタでスキャンデータをカスタマイズする方法を説明します。
- ◆ 付録 : 工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。

安全にご利用いただくために

この取扱説明書をよくお読みの上、特に安全に関する注意事項を守ってご利用ください。この取扱説明書の安全に関する注意事項に従わない場合、その結果生じる人身事故や物的損害について、当社は一切の責任を負いかねます。

- ✧ スキャナーを直射日光の当たる場所など、高温の場所に置かないでください。
- ✧ スキャナーを極めて湿度の高い場所や温度が急激に変化する場所で使用しないでください。
- ✧ 充電電池はスキャナーに永久的に取り付けられているものであり、交換することができません。
- ✧ 充電電池に損傷を与えないでください。充電電池の損傷は爆発や火災の原因になる場合があります。

BS80-HCの洗浄・消毒ガイド

- ◆ スキャンウィンドウを清潔に保ってください。
- ◆ スキャンウィンドウをこすらないでください。
- ◆ 柔らかいブラシでスキャンウィンドウの汚れを取り除いてください。
- ◆ メガネ用クロスなど柔らかい布でスキャンウィンドウを拭いてください。
- ◆ スキャンウィンドウに液体を吹きかけないでください。
- ◆ 以下の洗剤はBS80-HCの消毒、洗浄に使用できます。

- 水
- 過酸化水素3%、水97%の水溶液
- 2-プロパノール91%、水9%の水溶液
- Metrex CaviCide表面消毒剤
- 75%アルコール
- クリネル® ユニバーサル環境清拭用ワイプ
- Sani-Hands® 手用インスタント除菌ワイプ
- PDI Sani-Cloth AF3 殺菌用使い捨てワイプ
- 漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム0.55%）10%、水90%の水溶液（スキャナーのラベルに使用しないでください）
- USBポートにはいかなる洗剤も使用できません。



本製品の保証は不適切な手入れやメンテナンスによる損傷は**適用対象外**

です。ラベルは保護フィルムをはがさないでください。

第1章 使用開始

概要

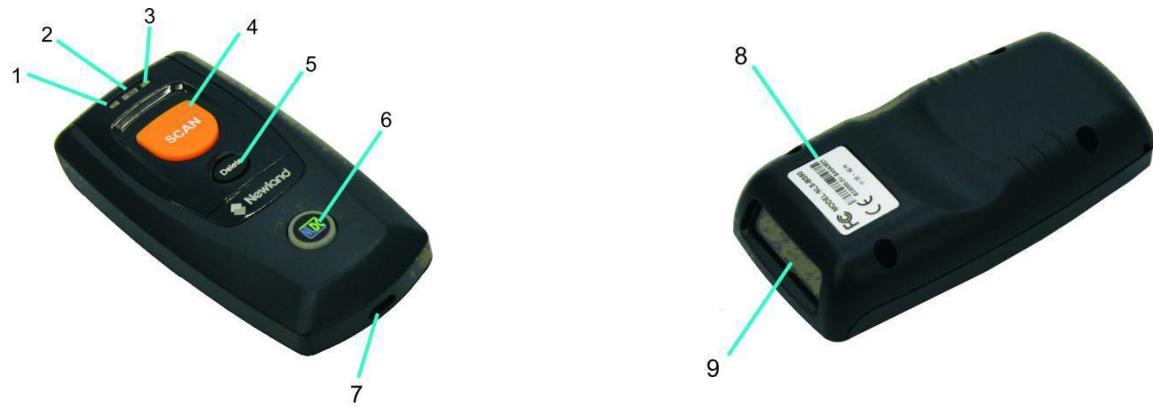
BS80は1次元バーコードまたは2次元バーコード用スキャンエンジンを搭載し、異なる用途に対応したワイヤレスポケットバーコードスキャナーです。非常にコンパクトですので密集している作業場やスペースが限られている作業場でも使いやすいです。本製品はIos、Android、WindowsデバイスによるBluetooth HID、SPP、BLE通信に対応しています。

BS80の概要は本章に記載されています。スキャナーをご利用になる際、本書の内容をご理解いただくことで本製品をご活用いただけます。本章は一般ユーザー、メンテナンス担当者、ソフトウェア開発者を対象にしています。

パッケージ開梱

パッケージを開梱後、スキャナーと付属品を取り出します。リスト内の同梱物が全て正しい状態で用意されていることを確認してください。同梱物が損傷または不足している場合、販売店のアフターサービス担当まですぐにご連絡ください。

BS80スキャナー



1 充電/バッテリー状態LED	2 グッドリード LED
3 データLED	4 スキャン/電源 ボタン
5 削除/リセットボタン	6 機能ボタン/機能表示LED
7 Micro USBポート	8 製品ラベル
9 スキャンウィンドウ*	

*注意:バーコード読み取り前にスキャンウィンドウの保護フィルムをはがしてください。

各ボタンの機能

スキャン/電源ボタン
*ボタンを押してバーコードをスキャンします。
*ボタンを3秒間長押しするとスキャナーの電源がオンになります。
削除/リセットボタン
*ボタンを押すと、削除するバーコードをスキャンする前が以下の状態に該当するフラッシュメモリ内の対応データを削除します。 (i) Bluetoothモードが有効であるものの、Bluetooth接続がされていない場合、 (ii) Bluetoothモード & バッチ送信が有効の場合、 (iii) USBモードが有効であるものの、USBケーブル接続がされていない場合、 (iv) USB モード & バッチ送信が有効の場合。
*ボタンを7秒間長押しするとリセットされます。
機能ボタン
*ボタンを押すとBluetoothモードでiOSデバイスに接続したHIDキーボードをオン/オフすることができます。
*以下の状態でボタンを3秒間長押しするとデータ送信を開始します。 (i) Bluetoothモード & バッチ送信が有効の場合、 (ii) USBモードが有効で、スキャナーがUSBケーブルでPCと接続されている場合。
スキャン/電源ボタン + 機能ボタン
*2つのボタンを3秒間同時に長押しすると、BluetoothモードとUSBモードを切り替えます。
削除/リセットボタン + 機能ボタン
*2つのボタンを同時に押すと、BluetoothモードでスキャナーとBluetoothデバイスのペアリングが解除され、他のBluetoothデバイスがスキャナーを検知できるようになります。
*緑色のグッドリードLEDが光るまで2つのボタンを同時に長押しするとスキャナーのステータス更新を開始します。
注意：アップデートをエラーした場合、間違ってステータスのアップデートを開始した場合は削除/リセットボタンを7秒間押してスキャナーをリセットしてください。
スキャン/電源ボタン + 削除/リセットボタン
*2秒間同時に押すと充電/バッテリー状態LEDでバッテリー残量をチェックできます。
*2つのボタンを3秒間同時に押すと以下のいずれかに該当する場合、フラッシュメモリ内に保存されたデータを全て削除します。 (i) Bluetoothモードが有効かつBluetoothと接続済みで、バッチ送信とデータ通信確定リクエストが有効の場合、 (ii) USBモードが有効で、スキャナーがUSBケーブルでPCと接続され、データ通信確定リクエストが有効の場合。

機能ボタンと削除ボタンの無効化

以下のバーコードをスキャンすると、機能ボタンと削除ボタンの無効化しますが、緊急時の場合、アップデータ機能とリセット機能は有効です。



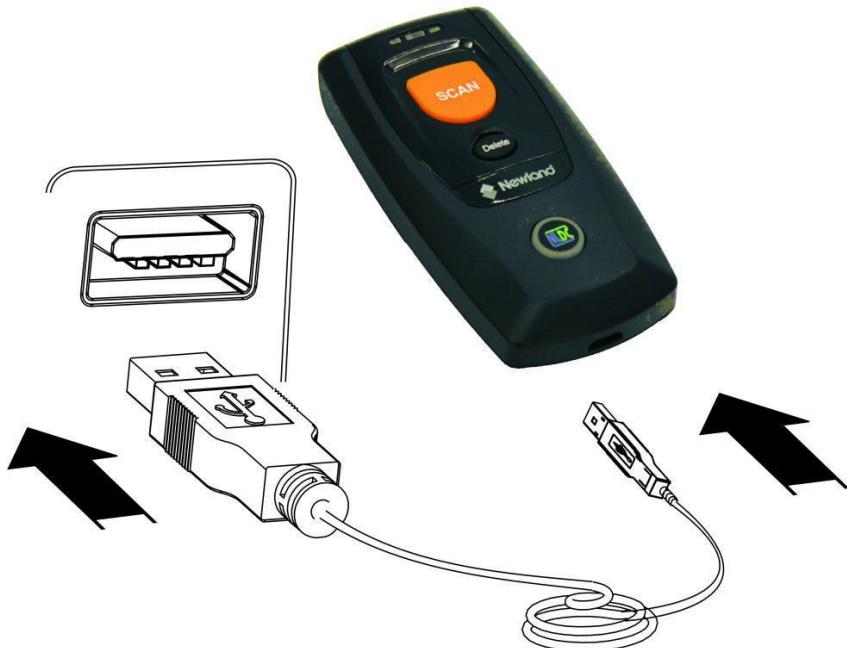
Disable Function and Delete Button
(機能ボタンと削除ボタンの無効化)



****Enable Function and Delete Button**
(機能ボタンと削除ボタンの有効化)

バッテリーの充電

図示のとおり、Micro USBケーブルをホスト機器に接続してスキャナーを充電します。



注意：低バッテリーはスキャンエラーや誤作動が発生する可能性があります。ご使用前にバッテリーを3-4時間充電してください。

BS80をスマートフォン/タブレットへ接続

- ご利用のデバイスがHID、SPP、BLEいずれかのプロファイルに対応していることを確認します。
- スキャナーの赤い機能表示LEDがオンの場合、スキャン/電源ボタンを押しっぱなしにして機能ボタンを3秒間同時に押すか、**Bluetooth Mode (Bluetooth モード)** バーコードをスキャンしてBluetoothモードへ切り替えます。削除/リセットボタンと機能ボタンを同時に押すか、**Delete Bluetooth Pairing (Bluetoothペアリングの解除)** バーコードをスキャンして既存のペアリングをスキャナーから解除します。



Bluetooth Mode (Bluetooth モード)



Delete Bluetooth Pairing
(Bluetoothペアリングの解除)

- スマートフォン/タブレットの低電力モードをオフにします。
- スマートフォン/タブレット選択前に以下の適切バーコードをスキャンしてHID、SPP、BLEいずれかのプロファイルを選択します。デバイスで使用しているプロファイルが不明の場合、最初にHID、次にSPP、最後にBLEをお試しください。

5.



HID (初期設定)



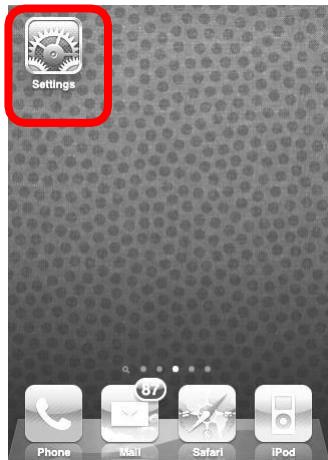
SPP



BLE

6. 以下の操作手順を完了します(例:iPhoneとペアリング)。

(1) 「設定」をクリックします。 (2) 「一般」をクリックします。 (3) 「Bluetooth」をクリックします。



(4) トグルスイッチをオンにしてデバイスを探します。



7. 接続完了後、スキャナーの青い機能表示LEDが光ります。

8. WordPadファイルや関連アプリを使用前、デバイスのキーボード言語を英語に設定します。すると、バーコードをスキャンすると現在のカーソル位置にバーコードデータが表示されます。

データをスマートフォン/タブレットに送信できない場合、**Restore Factory Defaults**（工場出荷時設定に戻す）バーコードをスキャンしてください（第2章参照）。

注意: 本製品はBluetooth規格に準拠しています。本製品と通信するデバイスは同じSPP、HID、BLEに対応する必要があります。他のプロファイルのBluetoothデバイスの場合、本製品でテストする前に接続を保証しません。

製品の通信速度と範囲は、製品と接続するデバイス間の障害物や電波状況によって異なります。ホスト機器の状態もスキャナーの通信速度と範囲に影響する場合があります。

LED表示一覧

充電/バッテリー状態LED	
赤いLEDが発光	充電中です。
緑色のLEDが発光	完全に充電されています。
赤と緑色のLEDが交互に点滅	バッテリーが見つかりません。
赤いLEDが点滅	バッテリー残量警告
スキャナーを起動して、スキャン/電源ボタンと削除/リセットボタンを3秒間同時に押すと、充電/バッテリー表示LEDでバッテリー残量を確認できます。	
充電/バッテリー表示LEDが緑色に発光	バッテリー残量多
充電/バッテリー表示LEDがオレンジ色に発光	バッテリー残量中
充電/バッテリー表示LEDが緑色に発光	バッテリー残量少

バッテリー電圧が低すぎると、スキャナーは充電/バッテリー表示LEDを赤く点滅させながらブザー音を鳴らします。スキャナーが強制シャットダウンされる前に早めに充電してください。シャットダウンされた場合、電源をオンにする前にフル充電してください。

グッドリードLED	
緑色のLEDが発光	グッドリード成功
データLED	
赤いLEDが点滅	フラッシュメモリにデータが存在します。
赤いLEDが発光	フラッシュメモリに空きがありません。
機能表示LED	
青いLEDがゆっくり点滅 (OFFの状態が長い)	Bluetoothモードが有効ですが、Bluetoothに接続されておらず、BS80が見つかりません。
青いLEDがゆっくり点滅 (ONの状態が長い)	Bluetoothモードが有効であり、Bluetoothに接続されていませんが、BS80が見つかっています。
青いLEDが発光	Bluetoothの接続が完了しています。
青いLEDが速く点滅	Bluetooth経由でデータ送信中です。
赤いLEDが発光	USBモードが有効化しています。
赤いLEDが速く点滅	USB経由でデータ送信中です。

BS80の電源オン/オフ

スキャナーの電源オン: スキャン/電源ボタンを3秒間押します。

スキャナーの電源オフ: 初期設定では、スキャナーは30秒間何も操作しないと自動的に電源がオフになります。自動電源オフまで時間を調節することができます。また、**Power Off** (電源オフ) バーコードをスキャンしてもスキャナーの電源をオフにすることができます。詳しくは、第2章の「自動/手動電源オフ」セクションをご覧ください。

スキャン方法

1次元バーコードをスキャン

バーコードとスキャナー間のスキャンの角度（垂直ではバーコードを読み取りません）または距離を調節して、以下のとおり、スキャンラインの長さがバーコードの長さより8mmほど長いことを確認します。



Right	Wrong

2次元バーコードをスキャン

バーコードとスキャナー間のスキャン角度と距離を以下の図の範囲に収まるように調節します。

1. バーコード中央のスキャンラインに照準を合わせます。

2. 最適なスキャン距離: 5-20cm.



第2章 システム設定

概要

本章ではスキャナーの基本システムのパラメータを設定する方法を説明します。

工場出荷時設定に戻す



Restore Factory Defaults (工場出荷時設定に戻す)

スキャンモード(1次元スキャナー)

トリガーモード

トリガーを引いてデコードセッションを開始します。デコードセッションはバーコードがデコードされるまで、またはデコードセッションタイムアウトが時間切れになるまで続きます。ホスト機器はEasysetなどのアプリケーション経由でコマンド「\$\$%^7400」をスキャナーへ送信してデコードセッションを開始することもできます。



Trigger Mode (トリガーモード: 初期設定)

センスモード

スキャナーは提示されたバーコードを検出するたびにデコードセッションを開始します。デコードセッションはバーコードがデコードされるまでまたはデコードセッションタイムアウトが時間切れになるまで続きます。読み取りタイムアウトは同じバーコードの不要な読み取りを防止することができます。センスモードの感度の設定を変更することで画像キャプチャの感度を変更できます。手ぶれ補正タイムアウトはバーコードをデコード後、他のバーコードを「見る」際に周囲の環境に適応する時間を指定します。



Sense Mode (センスモード)

デコードセッションタイムアウト

スキャンを試みる間継続するデコードセッションタイムアウトの最大時間を設定するパラメータです。0秒から15秒まで1秒単位で設定できます。0に設定するとタイムアウトは無制限になります。初期設定は3秒です。この機能はセンスモード時のみ利用できます。



Decode Session Timeout (デコードセッションタイムアウト)

デコード間タイムアウト

Timeout between Decodes (デコード間タイムアウト) はデコードセッション終了から次のデコードセッション開始までの時間を設定します。15段階から選択できます。500ms (レベル1) から7,500ms (レベル15) まで500ms単位で設定できます。初期設定はレベル2です。この機能はセンスモード時のみ利用できます。



Timeout between Decodes (デコード間タイムアウト)

感度

感度はスキャナーのキャプチャする画像の変化への反応の鋭さを設定します。数値が小さくなるほど感度が高くなり、スキャナーをトリガーする画像の変化要件が低くなります。利用環境に適した強さの感度を選択できます。この機能はセンスモード時のみ利用できます。



Medium Sensitivity (中感度: 初期設定)



Low Sensitivity (低感度)



High Sensitivity (高感度)

スキャンモード (2次元スキャナー)

トリガーモード

トリガーを引いてデコードセッションを開始します。デコードセッションはバーコードがデコードされるまで、またはデコードセッションタイムアウトが時間切れになるまで続きます。ホスト機器はEasysetなどのアプリケーション経由でコマンド「\$\$%^7400」をスキャナーへ送信してデコードセッションを開始することもできます。



Trigger Mode (トリガーモード：初期設定)

センスモード

スキャナーは提示されたバーコードを検出するたびにデコードセッションを開始します。デコードセッションはバーコードがデコードされるまでまたはデコードセッションタイムアウトが時間切れになるまで続きます。読み取りタイムアウトは同じバーコードの不要な読み取りを防止することができます。センスモードの感度の設定を変更することで画像キャプチャの感度を変更できます。手ぶれ補正タイムアウトはバーコードをデコード後、他のバーコードを「見る」際に周囲の環境に適応する時間を指定します。



Sense Mode (センスモード)

デコードセッションタイムアウト

スキャンを試みる間継続するデコードセッションタイムアウトの最大時間を設定するパラメータです。100msから3,600,000msまで1ms単位で設定できます。0に設定するとタイムアウトは無制限になります。初期設定は3,000msです。



Decode Session Timeout (デコードセッションタイムアウト)

例: デコードセッションタイムアウトを1500msに設定する方法

1. **Decode Session Timeout** バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save** バーコードをスキャンします。

手ぶれ補正タイムアウト

このパラメータはバーコードをデコード後、他のバーコードを「見る」際に周囲の環境に適応する時間を指定します。0msから1600msまで設定できます。初期設定は500msです。



Image Stabilization Timeout (Sense Mode)

手ぶれ補正タイムアウト（センスモード）

例: 手ぶれ補正タイムアウト（センスモード）を500msに設定する方法

1. **Image Stabilization Timeout (Sense Mode)** バーコードをスキャンします。

2. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1「5」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。

グッドリード後に継続

Continue after Good Read（グッドリード後に継続）：スキャナーはグッドリード後に次ぎのデコードセッションを開始します。

Pause after Good Read（グッドリード後に停止）：グッドリード後に次のラウンドの光源モニタリングと手振れ補正を開始します。



Pause after Good Read (グッドリード後に停止：初期設定)



Continue after Good Read (グッドリード後に継続)

デコード間タイムアウト(同じバーコード)

デコード間タイムアウト(同じバーコード)は設定時間内の不要な読み取りを防止できます。

Disable Timeout between Decodes (Same Barcode)（デコード間タイムアウト(同じバーコード)を無効化）：スキャナーは同じバーコードを再度読み取ることができます。

Enable Timeout between Decodes (Same Barcode) & Reset Timeout Off（デコード間タイムアウト(同じバーコード)を有効化&リセットタイムアウト オフ）：スキャナーはデコード間タイムアウト(同じバーコード)が時間切れになるまで同じバーコードを再度読み取ることができません。

Enable Timeout between Decodes (Same Barcode) & Reset Timeout On（デコード間タイムアウト(同じバーコード)を有効化&リセットタイムアウト オン）：スキャナーは同じバーコードを再度読み取ることができません。



Disable Timeout between Decodes (Same Barcode)

(: 初期設定) (デコード間タイムアウト(同じバーコード)を無効化)



Enable Timeout between Decodes (Same Barcode)
(デコード間タイムアウト(同じバーコード)を有効化)



Reset Timeout Off (リセットタイムアウト オフ : 初期設定)



Reset Timeout (リセットタイムアウト)

以下のパラメータは同じバーコード用のデコード間タイムアウトを設定します。0msから3,600msまで1ms単位で設定できます (ハードウェアのバージョンがV5.X以降の場合、前述の範囲に対応し、V3.Xは0msから65,535msまで対応しています)。初期設定は1,500msです。



Timeout between Decodes (Same Barcode)

(デコード間タイムアウト (同じバーコード))

例: デコード間タイムアウト (同じバーコード) を1,000msに設定する方法

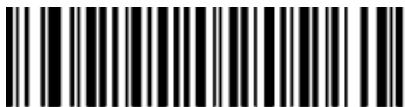
1. **Timeout between Decodes (Same Barcode)** バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード (2次元スキャナー)」セクションにある英数字バーコード

「1 「0」、 「0」、 「0」 をスキャンします。

3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

感度

感度は周囲の光源の変化への反応の鋭さを設定します。感度が高くなるほど、スキャナーをトリガーする光源の変化要件が低くなります。利用環境に適した強さの感度を選択できます。



Medium Sensitivity (中感度 : 初期設定)



Low Sensitivity (低感度)



High Sensitivity (高感度)



Enhanced Sensitivity (強化感度)

操作モード

スキャナーには、BluetoothモードとUSBモードの2つの操作モードがあります。2つのモードを切り替える場合、スキャン/電源ボタンと機能ボタンを3秒間同時に押すか、**USB Mode (USBモード)** または **Bluetooth Mode (Bluetoothモード)** をスキャンします。

Bluetoothモード



Bluetooth Mode (Bluetoothモード: 初期設定)

スキャナーがBluetoothモードの場合、以下の適切なバーコードをスキャンすれば希望するプロファイルを選択できます。



HID (初期設定)



SPP



BLE

Bluetooth経由のデータ送信方法は同期送信、非同期送信、バッチ送信の3種類あります。

(1) **同期送信 (初期設定):**バーコードをスキャンする際、データはスマートフォン/タブレットへ直接送信されます。Bluetoothの通信範囲外にいる場合、送信データは失われます。

(2) **非同期送信 :**Bluetoothの通信範囲外にいる場合、スキャンしたデータはフラッシュメモリに保存されます。通信範囲内に戻った場合、データはスマートフォン/タブレットに自動的に送信されます。スマートフォン/タブレットが受信後、スキャナーはフラッシュメモリから自動的に削除します。

(3) **バッチ送信 :**Bluetoothの通信範囲内外を問わず、スキャンしたデータはフラッシュメモリに保存されます。以下のいずれかの方法で保存したデータをスマートフォン/タブレットに送信できます。 (i)スキャナーの機能ボタンを3秒間押したままにします (注意: データ送信を中止/再開する場合、機能ボタンを軽く押してください) 、 (ii) **Transmit Stored Data** バーコードをスキャンします、 (iii)対応するシリアルコマンドをスキャナーへ送信します (「シリアルプログラミングコマンド」マニュアルをご覧ください) 。



Synchronous Transmission, Bluetooth (: 初期設定)
(同期送信、Bluetooth (初期設定))



Asynchronous Transmission, Bluetooth
(非同期送信、Bluetooth)



Batch Transmission, Bluetooth
(バッチ送信、Bluetooth)



Transmit Stored Data
(保存データを送信)

以下の機能はスキャナーがBluetoothバッチモードの場合、自動的に有効化されます。

データ受信を検証 :スキャナーは送信後、保存したデータを保管し、ユーザーはこの際、データが正しく受信し、必要時にデータを再送しているかを検証することができます。保存したデータをフラッシュメモリから全て削除する場合、スキャン/電源ボタンと削除/リセットボタンを3秒間同時に押すか、 **Clear All Stored Data** (保存したデータを全てクリア) バーコードをスキャンするか、対応するシリアルコマンドをスキャナーへ送信します。

USBモード



USB Mode (USBモード)

スキャナーがUSBモードの場合、適切なバーコードをスキャンして必要なバーコードを選択できます。



USB HID-KBW (初期設定)



USB CDC

USB経由のデータ送信方法は、非同期送信とバッチ送信の2種類があります。

(1) **非同期送信（初期設定）**：スキャナーがUSBケーブルでPCに接続されていない場合、スキャンデータはフラッシュメモリに保存されます。スキャナーがUSBケーブルでPCに接続されている場合、スキャンデータはPCへ直接送信されます。

(2) **バッチ送信**：スキャンデータはPCへの接続の有無を問わず、フラッシュメモリに保存されます。

以下の手順でフラッシュメモリからUSB経由でPCに同期することができます。

Step 1: USB CDCが有効化されている場合、Newland公式サイト (www.newlandaidc.com) で UFCOM ドライバーをダウンロードしてご利用のPCにインストールします。USB HID-KBWが有効化されている場合、ドライバーは不要です。

Step 2: スキャナーをUSBケーブルでご利用のPCに接続します。スキャナーは接続が完了するとブザーを鳴らします。

Step 3: USB CDCが有効化されている場合、PCのCOMツールを開いて、カーソル位置が常に合わさっていることを確認します。USB HID-KBWが有効化されている場合、PCのNotepadまたはOffice Wordを開いて、カーソル位置が常に合わさっていることを確認します。スキャナーの機能ボタンを3秒間押し続けるか、**Transmit Stored Data**（保存データを送信）バーコードをスキャンしてフラッシュメモリからPCへのデータ送信を開始します。スキャナーは送信が完了するとブザーを鳴らします。



Batch Transmission, USB
(バッチ送信、USB)



Asynchronous Transmission, USB
(非同期送信、USB : 初期設定)



Transmit Stored Data (保存データを送信)

スキャナーがUSBバッチモードに設定されている場合、以下の機能は自動的に有効化されます。さらに、以下の適切なバーコードをスキャンしてUSB非同期モード用のこの機能を有効化/無効化することができます。

Verify Receipt of Data（データの受信を検証）：送信後、スキャナーは全ての保存データを保管し、これによりユーザーはデータが正しく受信されるか、必要時にデータが再送されるかを検証できます。フラッシュメモリに保存されているデータを削除する場合、スキャン/電源ボタンと削除/リセットボタンを同時に3秒間押すか、**Clear All Stored Data**（全てのスキャンデータを消去）バーコードをスキャンして対応するシリアルコマンドをスキャナーへ送信します。

Do Not Verify Receipt of Data（データの受信を検証しない）：送信後、保存データは自動的に削除されます。



Do Not Verify Receipt of Data
(データ受信を検証しない: 初期設定)



Verify Receipt of Data
(データ受信を検証)

注意:

1. スキャナーの操作モードを他のモードへ切り替える場合、対応するLEDの通知と共にブザーが鳴ります(詳しくは第1章の「LED表示一覧」セクションをご覧ください)。
2. 上記に記載の方法の他に、スキャン/電源ボタンと機能ボタンを3秒間同時に押すとBluetoothモードとUSBモードを切り替えることができます。

同じバーコードの保存防止

この機能は自動モードまたは手動バッチモードでバーコードをスキャンする場合のみ利用できます。

On: フラッシュメモリに存在したバーコードと遭遇した場合、スキャナーはデータを破棄してブザー音を鳴らします。

Off: フラッシュメモリに存在したバーコードと遭遇した場合、スキャナーはデータを保存します。



Off



On

製品情報クエリ



Query the Firmware Version of Embedded Scan Engine
(組み込み式スキャンエンジンのファームウェアバージョンをクエリ)



Query the Manufacture Date of Product
(製品の製造日をクエリ)



Query the Serial Number of Product
(製品のシリアル番号をクエリ)



Query the Firmware & Hardware Versions of Product
(製品のファームウェア&ハードウェアバージョンをクエリ)



Query Bluetooth Version Information
(Bluetoothバージョン情報をクエリ)

フラッシュに保存されたデータをクエリ/削除



Query the Number of Stored Barcodes
(保存されたバーコード数をクエリ)



Clear All Stored Data
(全ての保存データを消去)

ブザー通知

以下の適切なバーコードでブザー通知をオン/オフします。この機能を有効化後、以下の状態が発生するとスキャナーのブザーが鳴ります。

1. スキャナーの電源をオンにした場合。
2. スキャナーをリセットした場合。
3. バーコードをデコードした場合(フラッシュメモリからバーコードデータの削除に対するグッドリード含む)。
4. スキャナーをBluetoothモードまたはUSBモードに切り替えた場合。
5. Bluetoothで送信データを送信できなかった場合。
6. iOSソフトキーボードをオン/オフした場合。
7. BluetoothまたはUSB経由のデータのバッチ送信を開始する場合。
8. BluetoothまたはUSB経由のデータのバッチ送信を中断した場合。
9. BluetoothまたはUSB経由のデータのバッチ送信を完了した場合。
10. ペアリングしたBluetoothデバイスがスキャナーからペアリングが解除された場合。
11. スキャナーの電源をオフにした場合。
12. スキャナーとホスト機器間でUSB接続を確立した場合。
13. スキャナーとホスト機器間でUSB接続を切断した場合。
14. スキャナーとホスト機器間でBluetooth接続を確立/切断した場合。



Sound Notifications On (: 初期設定)
(ブザー通知をオン : 初期設定)



Sound Notifications Off
(ブザー通知をオフ)

バイブレーション通知

以下の適切なバーコードをスキャンするとバイブレーション通知のオン/オフを切り替えることができます。この機能を有効化後、以下の状態が発生するとスキャナーは振動します。

1. バーコードをデコードした場合(フラッシュメモリからバーコードデータの削除に対するグッドリード含む)。
2. スキャナーをBluetoothモードまたはUSBモードに切り替えた場合。
3. iOSソフトキーボードをオン/オフした場合。
4. ペアリングしたBluetoothデバイスがスキャナーからペアリングが解除された場合。
5. BluetoothまたはUSB経由のデータのバッチ送信を開始する場合。
6. スキャナーの電源をオフにした場合。



Vibration Notifications On
(バイブレーション通知をオン)



Vibration Notifications Off (: 初期設定)
(バイブレーション通知をオフ : 初期設定)

Bluetoothペアリングを削除



Delete Bluetooth Pairing (Bluetoothペアリングを削除)

自動/手動電源オフ

初期設定では、スキャナーは30秒間何も操作しないと自動的に電源オフになります。この機能はバッテリー寿命を延ばすのに役立ちます。



Query Auto Power-Off Timer (自動電源オフタイマーをクエリ)

Set the auto power-off timer (自動電源オフタイマーを設定) :このパラメータは自動電源オフタイマーを設定します。1msから720msまで1ms単位で設定できます。720msに設定すると、スキャナーは自動的に電源オフになりません。f.



Set Auto Power-Off Timer (自動電源オフタイマーを設定)

例:

1. Set Auto Power Off Timer バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「5」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンします。

以下のバーコードをスキャンすると手動で電源をオフにすることができます。



Power Off (電源オフ)

注意: Power Off バーコードをスキャン後、スキャナーは長いブザー音を鳴らし、電源がオフになります。

Bluetoothデバイス名

Bluetooth 5.9.9以下のバージョンでは、BS80スキャナーのデフォルトのBluetoothデバイス名は、モデル名「BS80+」（ユーザーがプログラム可能）とデバイスのMACアドレスの最後の4文字（例えば、BS80+E4AC）を組み合わせたものです。

Bluetooth 6.0.0以上のバージョンでは、Bluetoothデバイス名はBS80+ [シリアル番号] であり、この場合、シリアル番号は製品パッケージまたは裏側に記載されている6桁のSNコードです。Bluetoothデバイス名に含まれるシリアル番号のサフィックスはコード設定で有効化/無効化することができます。

Query Bluetooth Version Information (Bluetoothバージョン情報をクエリ) バーコードをスキャンすればBluetoothバージョン情報を確認できます。

モデル名を最長20字で設定できます。モデル名を変更する場合、**Change Bluetooth Device Name (Bluetooth デバイス名を変更)** バーコードをスキャン後、変更したい名前に含まれる各文字のHEX値を表す英数字バーコードをスキャンしてから**Save** バーコードをスキャンします。

例: Bluetoothデバイス名を（モデル名）を「NLS1」(Hex: 0x4E/0x4C/0x53/0x31)に変更する方法。

1. **Change Bluetooth Device Name** バーコードをスキャンします。
- 2.付録 の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「4」、「E」、「4」、「C」、「5」、「3」、「3」、「1」をスキャンします。
- 3.付録 の「バーコードを保存/キャンセル」セクションにある**Save** バーコードをスキャンします。



Change Bluetooth Device Name (Bluetooth デバイス名を変更)



*Bluetooth Device Name Suffix On
(Bluetooth デバイス名サフィックスをオン)



Bluetooth Device Name Suffix Off
(Bluetooth デバイス名サフィックスをオフ)

無効のホストデータへの返信

初期設定では、スキャナーはホスト機器から無効なコマンドを受信すると「\r\n\$%~ER\r\n」を返します。以下の適切なバーコードをスキャンしてスキャナーがこのメッセージを送信しなくすることができます。

対応コマンドの一覧は「BS80シリアルプログラミングコマンド」をご覧ください。



** Enable Response for Invalid Host Data
(無効なホストデータの返信を有効)



Disable Response for Invalid Host Data
(無効なホストデータの返信を無効)

バーコードセパレーター

長さが最大10字（初期設定：なし）のセパレーターをバーコードの間に挿入することができます。この機能はBluetooth送信またはUSB バッチ送信を選択、およびパケットモードがオフの2つの状況に一致する場合のみ有効です。以下の適切なバーコードをスキャンしてこの機能を有効化/無効化することができます。バーコードセパレーターが有効の場合、初期設定のセパレーターがバーコード間に挿入され、バッチ送信が完了後3回送信されます。



Enable Barcode Separator
(バーコードセパレーターを有効化)



Disable Barcode Separator (: 初期設定)
(バーコードセパレーターを無効化 : 初期設定)

バーコードセパレーターを設定する場合、**Set Barcode Separator**（バーコードセパレーターを設定）をスキャン後、挿入したいセパレーターに含まれる文字のHEX値を表す数値をスキャンしてから**Save**バーコードをスキャンします。



Set Barcode Separator
(バーコードセパレーターを設定)



Query Barcode Separator
(バーコードセパレーターをクエリ)

例: バーコードセパレーターを「*」(Hex: 0x2A)に設定する方法

1. **Set Barcode Separator** バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「2」、「A」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションにある**Save** バーコードをスキャンします。

パケットモード

パケットモードがオフの場合、データはRAW形式(未加工)で送信されます。

パケットモードがオンの場合、データは以下で定義されるパケット形式で送信され、データがホスト機器またはスキャナーが受信した際にデータの整合性を検証します。バッチ送信の場合、スキャナーは0x7E、0x01、0x30、0x30、0x30、0x30、0x00、0x00、0x3B、0x03、0x00を送信し、ホスト機器にバッチ送信の完了を通知します。

注意: この機能はBluetooth SPP/BLEまたはUSB CDCを使用中のみ有効です。

パケット形式: {Header} {LEN} {DATA} {Trailer} {Checksum}

ヘッダー: 0x7E 0x01 0x30 0x30 0x30

0x30

LEN: DATAの長さ、2バイト

DATA: スキャナーがバーコードデータを送信またはホスト機器がプログラミングコマンドを送信

トレーラー: 0x3B 0x03

チェックサム: 演算シーケンス: 0x00+DATA; 演算方法は1バイトごとのXOR形式。

ホストレスポンス: {Header} {Response Value} {Response Method} {Trailer}

ヘッダー: 0x02 0x01

レスポンス値: 0x06 (ACK) または
0x15 (NAK)

レスポンス方法: 0x00 (無レスポンス)、

0x01 (ACK用短い高周波ブザー×2、NAK用低周波ブザー×1) 、
0x02 (ACK用200msの振動、NAK用1sの振動)

トレーラー: 0x3B 0x03

スキャナーレスポンス: {Header} {Response Value} {Trailer}

ヘッダー: 0x02 0x01

レスポンス値: 0x06 (ACK) または
0x15 (NAK) トレーラー: 0x3B 0x03



Packet Mode On (パケットモードオン)



Packet Mode Off (パケットモードオフ : 初期設定)

NAK/ACK 再試行カウント

このパラメータはスキャナーがホストからのACKのレスポンスを待機している際にバーコードを再送する回数を設定します。注意：このパラメータが機能するためにはパケットモードがオンである必要があります。1回から8回まで選択できます。初期設定値は2回（再試行）です。



Set ACK/NAK Retry Count (ACK/NAK再試行カウントを設定)

例: ACK/NAK再試行カウントを1回に設定する方法

1. **Set ACK/NAK Retry Count** バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションにある**Save** バーコードをスキャンします。

NAK/ACKタイムアウト

このパラメータは、バーコード送信後にスキャナーがホスト機器からのACK文字を待機する時間を指定します。0ms から15,000msまで1ms単位で設定できます。0を選択すると、タイムアウトは無効になります。初期設定は200msです。注意：このパラメータが機能するためにはパケットモードがオンである必要があります。



Set ACK/NAK Timeout (ACK/NAKタイムアウトを設定)

例: ACK/NAKタイムアウトを100msに設定する方法

1. **Set ACK/NAK Timeout** バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「1」、「0」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードを保存/キャンセル」セクションにある**Save** バーコードをスキャンします。

製品シリアル番号

シリアル番号の送信を有効化/無効化することで送信するか選択できます。



Enable Product Serial Number
(製品シリアル番号を有効化)



Disable Product Serial Number (: 初期設定)
(製品シリアル番号を無効化 : 初期設定)

タイムスタンプ

タイムスタンプを有効化/無効化することで日付を送信するか設定できます。



Enable Time Stamp
(タイムスタンプを有効化)



Disable Time Stamp
(タイムスタンプを無効化 : 初期設定)

データフォーマットを設定



Format1: mm/dd/yyyy

(フォーマット 1: mm/dd/yyyy)

(例: 23/01/2011)



Format2: dd/mm/yyyy

(フォーマット 2: dd/mm/yyyy)

(例: 01/23/2011)



Format3: yyyy/mm/dd

(フォーマット 3: yyyy/mm/dd : 初期設定)

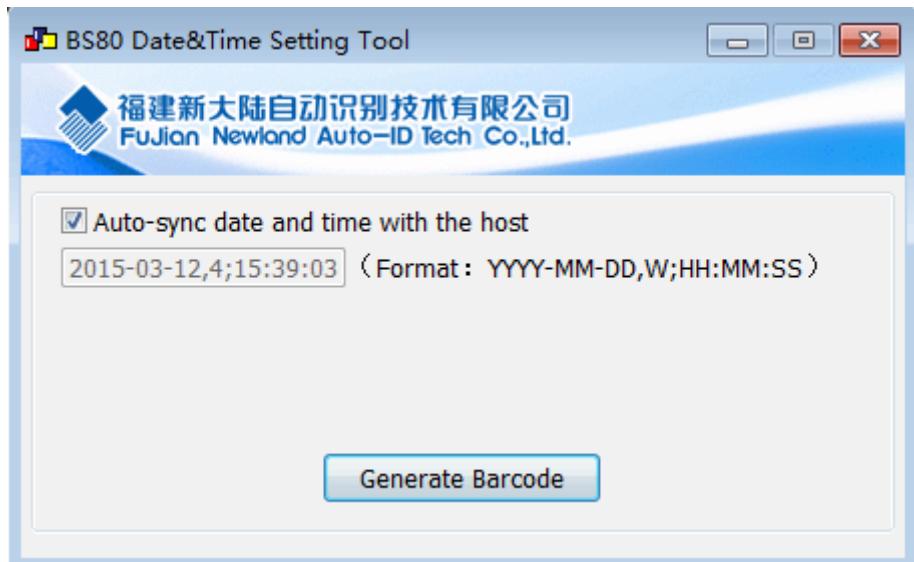


Query Current Date & Time

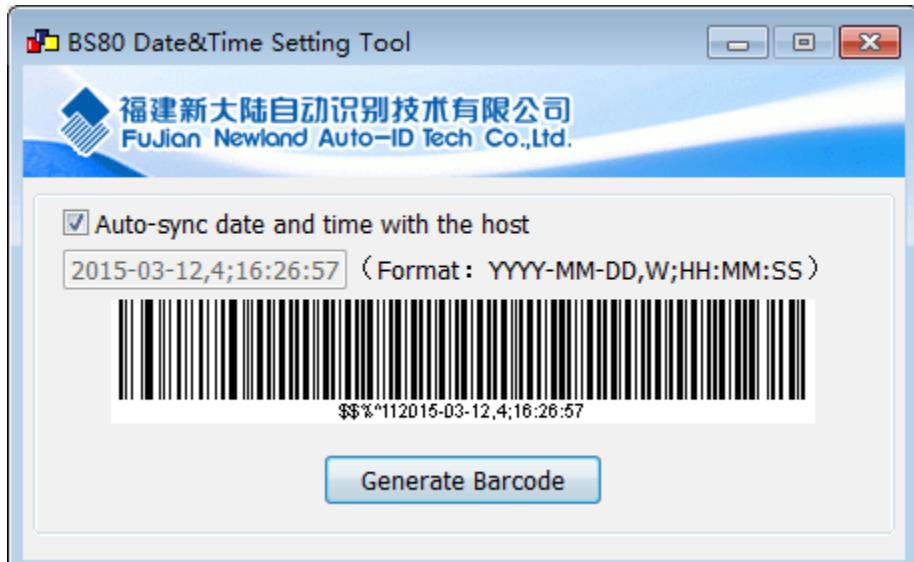
(現在の日時をクエリ)

日時設定

Step 1: Double click on BS80設定をダブルクリックします。次にメニューの「ホスト機器を日常と



自動同期」の項目をクリックします。



Step 2: ボックスの表示時間がシステムと同期後、「バーコード生成」ボタンをクリックします。

Step 3: 生成したバーコードをスキャンしてスキャナーの日時を設定します。

注意: このツールはWindows XPまたはWIN7 のオペレーションシステムで起動する必要があります。

USB HID-KBW/ Bluetooth HIDのパラメータ

国別キーボードタイプ



US English (アメリカ、英語)



Belgium (ベルギー)



Brazil (ブラジル)



Canada (カナダ)



Czech (チェコ)



Danmark (デンマーク)



Finland (フィンランド)



France (フランス)



Germany, Austria (ドイツ、オーストリア)



Greece (ギリシャ)



Hungary (ハンガリー)



Israel (イスラエル)



Italy (イタリア)



Latin America, South America
(ラテンアメリカ、南アメリカ)



Netherland (オランダ)



Norway (ノルウェー)



Poland (ポーランド)



Portugal (ポルトガル)



Romania (ルーマニア)



Russia (ロシア)



Slovakia (スロバキア)



Spain (スペイン)



Sweden (スウェーデン)



Switzerland (スイス)



Turkey_F (トルコ Fタイプ)



Turkey_Q (トルコ Qタイプ)



UK (イギリス)



Japan (日本)

文字エンコード

バージョンV5.X以上のハードウェアが新機能に対応しています。



Code Page (コードページ : 初期設定)



UTF-8



Code Page and UTF 8 Auto Adaption

先行ゼロ付きキーボードエミュレーション

この機能をオンにすると、テンキーから送られてくる文字列を、先行ゼロ付きISO文字として送信することができます。例えば、ASCII Aは「ALT MAKE」 0065 「ALT BREAK」として送信されます。この機能は、**Emulate ALT+Keypad**が有効な場合のみ使用できます。



Off



**On

文字変換



No Case Conversion (文字変換なし: 初期設定)



Convert All to Upper Case (全て大文字に変換)



Convert All to Lower Case
(全て小文字に変換)



Invert Upper and Lower Case Characters
(大文字と小文字を逆転)

Emulate ALT+キーパッド

この機能により、どのキーボードを選択しても各ASCII文字 (0x00 - 0xFF)をテンキーで送信することができます。文字送信には複数のキーストロークエミュレーションが必要なため、この方法はあまり効率的ではない可能性があります。この機能はAndroid/ iOS デバイスでは利用できません。

以下のオプションを利用できます。

- **Disable (無効)** : ASCII文字がALT+キーパッドで送信されません。
- **Mode 1 (モード1)** : 選択したキーボードタイプに対応していないものの0x20~0xFFに該当するASCII文字がALT+キーパッドで送信されます。
- **Mode 2 (モード2)** : 0x20~0xFFに該当するASCII文字がALT+キーパッドで送信されます。
- **Mode 3 (モード3)** : 0x00~0xFFに該当するASCII文字がALT+キーパッドで送信されます。

注意: Function Key Mapping と Mode 3がバッティングしている場合、Function Key Mappingが適用されます。



Disable (無効化: 初期設定)



Mode 1 (モード1)



Mode 2 (モード2)



Mode 3 (モード3)

例: アメリカのキーボードが選択されている場合、バーコードデータ「Aþ F」(65/208/70)は以下のように送信されます。

(1) **Mode 1** が有効の場合:

「A」 -- キーストローク 「A」

「þ」 -- 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」

「F」 -- Keystroke 「F」

(2) **Mode 3** が有効の場合:

「A」 - 「ALT Make」 +

「065」 + 「ALT Break」

「þ」 -- 「ALT Make」 +

「208」 + 「ALT Break」

「F」 -- 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」

ファンクションキーマッピング

ファンクションキーマッピングが有効の場合、ファンクションキャラクタ(0x00 - 0x1F)はキーパッドでASCIIシーケンスとして送信されます。詳細情報は、付録の「ASCIIファンクションキーマッピング表」を参照してください。この機能はAndroid/ iOS デバイスでは利用できません。



Enable Function Key Mapping
(ファンクションキーマッピングを有効化)



Disable Function Key Mapping (: 初期設定)
(ファンクションキーマッピングを無効化 : 初期設定)

例: バーコードデータ 0x16

 T	ファンクションキーマッピングを有効化	Ctrl+V
	ファンクションキーマッピングを無効化	F1

テンキーのエミュレート

この機能が無効の場合、バーコードデータの送信はメインキーボードでキーストロークとしてエミュレートされます。

この機能を有効にする場合、**Emulate Numeric Keypad** (テンキーをエミュレート) バーコードをスキャンします。数字 (0-9) の送信はテンキーのキーストロークとしてエミュレートされますが、「+」、「_」、「*」、「/」、「.」などの他の文字の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。この機能はAndroid/ iOS デバイス



では利用できません。



@KBWNUM0



Emulate Numeric Keypad
(テンキーをエミュレート)



Do Not Emulate Numeric Keypad (: 初期設定)
(テンキーをエミュレートしない : 初期設定)

コードページ

Code Page (コードページ) プログラミング機能は海外の文字への対応のために提供されています。この機能はALT+キーパッドでASCIIキャラクタを送信する場合のみ有効です。(バージョンV5.X以上のハードウェアはCode Page 932に対応しています)。



Windows 1252 (ラテン I : 初期設定)



Windows 1251 (キリル語)



Code Page 932 (日本語、Shift-JIS)

例1: ISO-8859-1でエンコードされたロシア語向けの正しい出力に設定する方法

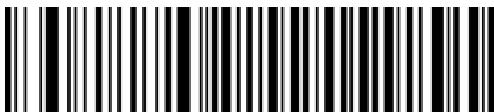
1. **Windows 1251 (キリル語)** バーコードをスキャンします。
2. 本章の「Emulate ALT+キーパッド」セクションに掲載の**Mode 3** バーコードをスキャンします。
3. 本章の「文字エンコード」セクションに掲載の **ISO-8859-1** バーコードをスキャンします。

例2: UTF-8でエンコードされたロシア語向けの正しい出力に設定する方法

1. **Windows 1251 (キリル語)** バーコードをスキャンします。
2. 本章の「Emulate ALT+キーパッド」セクションに掲載の**Mode 3** バーコードをスキャンします。
3. 本章の「文字エンコード」セクションに掲載の **UTF-8** バーコードをスキャンします。

Bluetooth HID用インターチャラクタディレイ

適切なインターチャラクタディレイを選択すると送信中にデータの損失を防止することができます。このパラメータはBluetooth HIDモードのみ有効です。



0ms



5ms



15ms (初期設定)



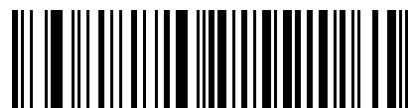
25ms



35ms



45ms



Query Inter-Character Delay (インターチャラクタディレイをクエリ)

USB HID-KBW用インターフェース

このパラメータは、USB HID-KBW用インターフェースの時間を1msから100msまで1ms単位で設定できます。



Set Inter-Keystroke Delay (インターフェースを設定)

例：インターフェースの時間を50msに設定する方法

1. Set Inter-Keystroke Delayをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード」セクションにある英数字バーコード「5」、「0」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。

BS80ファームウェアのアップグレード

BS80ファームウェアのアップグレードにはシステムファームウェアのアップグレードとスキャンエンジンファームウェアのアップグレードが含まれます。

システムファームウェアのアップグレード

Step 1: テクニカルサポートへ連絡してBS80ファームウェアアップグレードユーティリティと最新システムファームウェアを入手します。

Step 2: Newland 公式サイト (www.newlandaidc.com) よりUFCOM ドライバーをダウンロード後、以下の画面の指示に従ってPCにインストールします（ご利用のPCにインストール済みの方はこのステップをスキップしてください）。ドライバーが正しくインストールされていることを確認します。ドライバーをインストールしないとファームウェアをアップグレードすることができません。

Step 3: スキャナーの電源をオンにします。スキャナーの機能ボタンと削除/リセットボタンを緑色のグッドリードLEDが光るまで同時に押し続けます。

Step 4: BS80アップデートプログラムを実行し、「Start」をクリックします。



Step 5: スキャナーをUSBケーブルでPCに接続します。アップグレード中は赤と青の機能表示LEDが交互に点滅します。

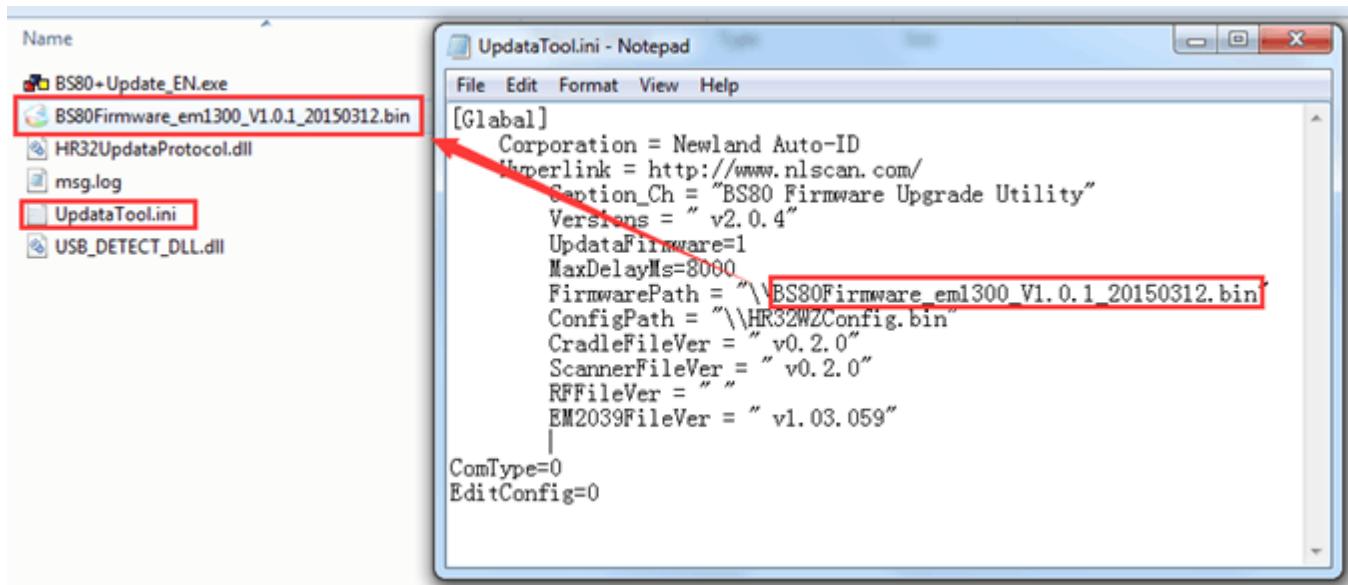


Step 6: 「ファームウェアのアップグレードが完了しました!」のポップアップが表示されたら「OK」をクリックしてプログラムを閉じます。



注意:

1. このユーティリティが正常に作動しない場合、UpdataToolのINIファイルにあるFirmwarePathが正常かチェックします（値がBINファイル名と同一である必要があります）。高いバージョンのファームウェアが存在する場合、BINファイルを置き換えます。



2. アップデートが失敗した場合、または間違えてアップデートを開始した場合、削除/リセットボタンを7秒間押してスキャナーをリセットする必要があります。

GS1アプリケーション識別子の送信

このパラメータは GS1 アプリケーション識別子の送信について設定します。 GS1 アプリケーション識別子の送信が無効である場合、 GS1 バーコードの全てのアプリケーション識別子は無効になります。 GS1 アプリケーション識別子の送信が有効である場合、 GS1 バーコードの全てのアプリケーション識別子は個別の初期設定によって有効化または無効化されます。



Disable Transmit GS1 Application Identifiers
(GS1アプリケーション識別子の送信の無効化)



****Enable Transmit GS1 Application Identifiers**
(GS1アプリケーション識別子の送信の有効化)

GS1-128(UCC/EAN-13)



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1 Databar(RSS)



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1 QR



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1 DM



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1チェックキャラクタの送信

このパラメータは GS1 チェックキャラクタの送信について設定します。 GS1 チェックキャラクタの送信が無効である場合、 GS1 バーコードの全てのチェックキャラクタの送信は無効になります。 GS1 アプリケーション識別子の送信が有効である場合、 GS1 バーコードの全てのチェックキャラクタの送信は個別の初期設定によって有効化または無効化されます。



Disable Transmit GS1 Check Character
(GS1チェックキャラクタの送信の無効化)



****Enable Transmit GS1 Check Character**
(GS1チェックキャラクタの送信の有効化)

GS1-128(UCC/EAN-13)



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1 Databar(RSS)



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1 QR



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1 DM



Disable (無効化)



****Enable** (有効化)

GS1アプリケーション識別子を括弧で囲む

Parentheses Surround GS1 Application Identifiers (GS1アプリケーション識別子を括弧で囲む) が有効の場合、スキャンデータに含まれる各アプリケーション識別子は出力メッセージで括弧に囲されます。



Disable Parentheses Surround GS1 Application Identifiers (GS1アプリケーション識別子を括弧で囲まない)



**Enable Parentheses Surround GS1 Application Identifiers (GS1アプリケーション識別子を括弧で囲む)

第3章 シンボロジー

概要

すべてのシンボロジー（バーコードタイプ）には、独自の属性があります。本章では、スキャナーがさまざまなシンボロジーを識別できるように設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。スキャナーの性能向上のため、ほとんど使用しない機能を無効化することをお勧めします。

注意:スキャナーが対応している最大のバーコード長さは3072バイトです。

1次元スキャナー

全てのシンボロジーを有効化/無効化



Enable All Symbologies (シンボロジーを有効化)



Disable All Symbologies (シンボロジーを無効化)

Code 128

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 128 (Code 128の工場出荷時設定に戻す)

Code 128を有効化/無効化



Enable Code 128 (Code 128を有効化：初期設定)



Disable Code 128 (Code 128を無効化)

Code 128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 128バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

UCC/EAN-128

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of UCC/EAN-128 (UCC/EAN-128を工場出荷時設定に戻す)

UCC/EAN-128 を有効化/無効化



Enable UCC/EAN-128 (UCC/EAN-128 を有効化 : 初期設定)



Disable UCC/EAN-128 (UCC/EAN-128 を有効化)

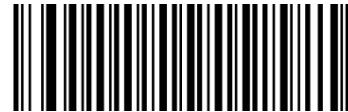
UCC/EAN-128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のUCC/EAN-128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つUCC/EAN-128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのUCC/EAN-128バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のUCC/EAN-128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

AIM 128

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of AIM 128 (AIM 128を工場出荷時設定に戻す)

AIM 128を有効化/無効化



Enable AIM 128 (AIM128を有効化)



Disable AIM 128 (AIM 128を無効化：初期設定)

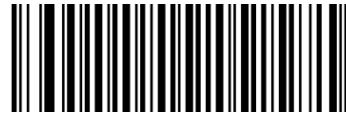
AIM 128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のAIM128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つAIM128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのAIM128バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のAIM 128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

EAN-8

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of EAN-8 (EAN-8の工場出荷時設定に戻す)

EAN-8を有効化/無効化



Enable EAN-8 (EAN-8 を有効化：初期設定)



Disable EAN-8 (EAN-8を無効化)

2桁のアドオンコード

EAN-8バーコードは2桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ✧ **Disable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを無効化) : EAN-8に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。
- ✧ **Enable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらもデコードします。
- ✧ **Decode EAN-8 + 2-Digit Add-On Code Only** (2桁のアドオンコード付きEAN-8のみデコード) : スキャナーは2桁のアドオンコード付きEAN-8のみデコードします。



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Decode EAN-8 + 2-Digit Add-On Code Only
(2桁のアドオンコード付きEAN-8のみデコード)

5桁のアドオンコード

EAN-8バーコードは5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ✧ **Disable 5-Digit Add-On Code** (5桁のアドオンコードを無効化) : EAN-8に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。
- ✧ **Enable 5-Digit Add-On Code** (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらもデコードします。

- ❖ **Decode EAN-8 + 5-Digit Add-On Code Only** (5桁のアドオンコード付きEAN-8のみデコード) :スキャナーは5桁のアドオンコード付きEAN-8のみデコードします。



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Decode EAN-8 + 5-Digit Add-On Code Only
(5桁のアドオンコード付きEAN-8のみデコード)

EAN-8 拡張

- ❖ **Disable EAN-8 Zero Extend** (EAN-8のゼロ拡張を無効化) :EAN-8バーコードをそのまま送信します。
- ❖ **Enable EAN-8 Zero Extend** (EAN-8のゼロ拡張を有効化) :デコードしたEAN-8バーコードの先頭に5つのゼロを加えて13桁に拡張します。
- ❖ **Convert EAN-8 to EAN-13** (EAN-8からEAN-13へ変換) :デコードしたEAN-8バーコードの先頭に5つのゼロを加え、EAN-13バーコードの形式と互換性を持たせるようにします。



Disable EAN-8 Zero Extend
(EAN-8のゼロ拡張を無効化：初期設定)



Enable EAN-8 Zero Extend
(EAN-8のゼロ拡張を有効化)



Convert EAN-8 to EAN-13
(EAN-8からEAN-13へ変換)

チェックキャラクタの送信

EAN-8 は長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



Transmit EAN-8 Check Character
(EAN-8チェックキャラクタを送信：初期設定)



Do Not Transmit EAN-8 Check Character
(EAN-8チェックキャラクタを送信しない)

EAN-13

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of EAN-13
(EAN-13の工場出荷時設定に戻す)

EAN-13 を有効化/無効化



Enable EAN-13 (EAN-13を有効化：初期設定)



Disable EAN-13 (EAN-13を無効化)

チェックキャラクタの送信

EAN-13 は長さが13桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



Transmit EAN-13 Check Character
(EAN-13チェックキャラクタを送信：初期設定)



Do Not Transmit EAN-13 Check Character
(EAN-13チェックキャラクタを送信しない)

2桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは2桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ✧ **Disable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13に2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。
- ✧ **Enable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらもデコードします。
- ✧ **Decode EAN-13 + 2-Digit Add-On Code Only** (2桁のアドオンコード付きEAN-13のみデコード) :スキャナーは2桁のアドオンコード付きEAN-13のみデコードします。



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Decode EAN-13 + 2-Digit Add-On Code Only
(2桁のアドオンコード付きEAN-13のみデコード)

5桁のアドオンコード

EAN-13バーコードは5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ❖ **Disable 5-Digit Add-On Code** (5桁のアドオンコードを無効化) : EAN-13に5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。
- ❖ **Enable 5-Digit Add-On Code** (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらもデコードします。
- ❖ **Decode EAN-13 + 5-Digit Add-On Code Only** (5桁のアドオンコード付きEAN-13のみデコード) : スキャナーは5桁のアドオンコード付きEAN-13のみデコードします。



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Decode EAN-13 + 5-Digit Add-On Code Only
(5桁のアドオンコード付きEAN-13のみデコード)

290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「290」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「290」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：Require Add-On Codeを選択後、この機能を無効化する場合、Do Not Require Add-On Codeをスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「378」または「379」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：Require Add-On Codeを選択後、この機能を無効化する場合、Do Not Require Add-On Codeをスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「414」または「419」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）: EAN-13バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない: 初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「434」または「439」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）: EAN-13バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない: 初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「977」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「977」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：Require Add-On Codeを選択後、この機能を無効化する場合、Do Not Require Add-On Codeをスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「978」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「978」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

この設定は、「978」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：Require Add-On Codeを選択後、この機能を無効化する場合、Do Not Require Add-On Codeをスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト

この設定は、「979」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「979」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：Require Add-On Codeを選択後、この機能を無効化する場合、Do Not Require Add-On Codeをスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

ISSN

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of ISSN (ISSNの工場出荷時設定に戻す)

ISSNを有効化/無効化



Enable ISSN (ISSNを有効化)



Disable ISSN (ISSNを無効化：初期設定)

ISBN

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of ISBN (ISBNの工場出荷時設定に戻す)

ISBNを有効化/無効化



Enable ISBN (ISBNを有効化)



Disable ISBN (ISBNを無効化：初期設定)

ISBN フォーマットの設定



ISBN-13 (初期設定)



ISBN-10

UPC-E

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of UPC-E
(工場出荷時設定に戻す)

UPC-Eを有効化/無効化



Enable UPC-E (UPC-Eを有効化：初期設定)



Disable UPC-E (UPC-Eを無効化)

チェックキャラクタの送信

UPC-Eは長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



Transmit UPC-E Check Character
(UPC-Eチェックキャラクタを送信：初期設定)



Do Not Transmit UPC-E Check Character
(UPC-Eチェックキャラクタを送信しない)

2桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードは2桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ✧ **Disable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Eに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-E バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。
- ✧ **Enable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらもデコードします。
- ✧ **Decode UPC-E + 2-Digit Add-On Code Only** (2桁のアドオンコード付きUPC-Eのみデコード) :スキャナーは2桁のアドオンコード付きUPC-Eのみデコードします。



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Decode UPC-E + 2-Digit Add-On Code Only
(2桁のアドオンコード付きUPC-Eのみデコード)

5桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードは5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ✧ **Disable 5-Digit Add-On Code** (5桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Eに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-E バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。
- ✧ **Enable 5-Digit Add-On Code** (5桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらもデコードします。
- ✧ **Decode UPC-E + 5-Digit Add-On Code Only** (5桁のアドオンコード付きUPC-Eのみデコード) :スキャナーは5桁のアドオンコード付きUPC-Eのみデコードします。



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化: 初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Decode UPC-E + 5-Digit Add-On Code Only
(5桁のアドオンコード付きUPC-Eのみデコード)

プリアンブルキャラクタの送信

プリアンブルキャラクタ（国コードとシステムキャラクタ）は、UPC-Eバーコードの一部として送信できます。UPC-Eプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード（アメリカは「0」）、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



No Preamble (プリアンブルなし：初期設定)



System Character (システムキャラクタ)



System Character & Country Code
(システムキャラクタ&国コード)

UPC-E 拡張

- ◆ **Disable UPC-E Zero Extend** (UPC-Eのゼロ拡張を無効化) : UPC-Eバーコードをそのまま送信します。
- ◆ **Enable UPC-E Zero Extend** (UPC-Eのゼロ拡張を有効化) : デコードしたUPC-Eバーコードの先頭に5つのゼロを加えて13桁に拡張します。
- ◆ **Convert UPC-E to UPC-A** (UPC-EからUPC-Aへ変換) : UPC-Aバーコードの形式と互換性を持たせるようにします。



Disable UPC-E Extend
(UPC-Eのゼロ拡張を無効化：初期設定)



Enable UPC-E Extend
(UPC-Eのゼロ拡張を有効化)



Convert UPC-E to UPC-A
(UPC-EからUPC-Aへ変換)

UPC-A

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of UPC-A (UPC-Aの工場出荷時設定に戻す)

UPC-Aを有効化/無効化



Enable UPC-A (UPC-Aを有効化：初期設定)



Disable UPC-A (UPC-Aを無効化)

チェックキャラクタの送信

UPC-Aは長さが13桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



Transmit UPC-A Check Character
(UPC-Aチェックキャラクタを送信：初期設定)



Do Not Transmit UPC-A Check Character
(UPC-Aチェックキャラクタを送信しない)

プリアンブルキャラクタの送信

プリアンブルキャラクタ（国コードとシステムキャラクタ）は、UPC-Aバーコードの一部として送信できます。UPC-Aプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード（アメリカは「0」）、プリアンブルキャラクタなしのいずれかの送信方法を選択します。



No Preamble (プリアンブルなし：初期設定)



System Character (システムキャラクタ)



System Character & Country Code
(システムキャラクタ&国コード)

2桁のアドオンコード

UPC-A バーコードは2桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ✧ **Disable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを無効化) : UPC-Aに2桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。
- ✧ **Enable 2-Digit Add-On Code** (2桁のアドオンコードを有効化) : スキャナーは2桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないUPC-Aバーコードのどちらもデコードします。
- ✧ **Decode UPC-A + 2-Digit Add-On Code Only** (2桁のアドオンコード付きUPC-Aのみデコード) :スキャナーは2桁のアドオンコード付きUPC-Aのみデコードします。



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Decode UPC-A + 2-Digit Add-On Code Only
(2桁のアドオンコード付きUPC-Aのみデコード)

5桁のアドオンコード

UPC-A バーコードは5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

- ✧ **Disa Disable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを無効化)** : UPC-Aに5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがないUPC-Aバーコードもデコードすることができます。
- ✧ **Enable 5-Digit Add-On Code (5桁のアドオンコードを有効化)** : スキャナーは5桁のアドオンコードがあるUPC-AバーコードとアドオンコードがないUPC-Aバーコードのどちらもデコードします。
- ✧ **Decode UPC-A + 5-Digit Add-On Code Only (5桁のアドオンコード付きUPC-Aのみデコード)** :スキャナーは5桁のアドオンコード付きUPC-Aのみデコードします。



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Decode UPC-A + 5-Digit Add-On Code Only
(5桁のアドオンコード付きUPC-Aのみデコード)

インターリード 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Interleaved 2 of 5
(インターリード 2 of 5の工場出荷時設定に戻す)

インターリード 2 of 5を有効化/無効化



Enable Interleaved 2 of 5
(インターリード 2 of 5を有効化：初期設定)



Disable Interleaved 2 of 5
(インターリード 2 of 5を無効化)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)

インタリープド 2 of 5の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のインタリープド2 of 5バーコードのみデコードするよう設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つインタリープド2 of 5バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのインタリープド2 of 5バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



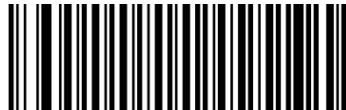
Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のインタリープド2 of 5バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

ITF-6

ITF-6 は長さが6文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリープド2 of 5 です。



Restore the Factory Defaults of ITF-6
(ITF-6の工場出荷時設定に戻す)



Disable ITF-6 (ITF-6を有効化：初期設定)



Enable ITF-6, Do Not Transmit Check Character
(ITF-6を有効化、チェックキャラクタを送信しない)



Enable ITF-6, Transmit Check Character
(ITF-6を有効化、チェックキャラクタを送信)

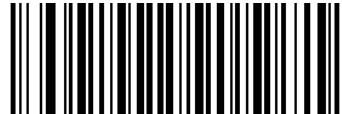
注意: ITF-6とインタリープド 2 of 5を同時に有効化しないことをおすすめします。

ITF-14

ITF-14 は長さが14文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリープド2 of 5 です。



Restore the Factory Defaults of ITF-14
(ITF-14の工場出荷状態に戻す)



Enable ITF-14, Do Not Transmit Check Character
(ITF-14を有効化、チェックキャラクタを送信しない)



Disable ITF-14 (ITF-14を無効化：初期設定)



Enable ITF-14, Transmit Check Character
(ITF-14を有効化、チェックキャラクタを送信)

注意: ITF-14とインタリープド 2 of 5を同時に有効化しないことをおすすめします。

Deutsche 14



Restore the Factory Defaults of Deutsche 14
(Deutsche 14の工場出荷時設定に戻す)

Deutsche 14を有効化/無効化



Enable Deutsche 14, Do Not Transmit Check Character
(Deutsche14を有効化、チェックキャラクタを送信しない)



Disable Deutsche 14 (Deutsche14を無効化：初期設定)



Enable Deutsche 14, Transmit Check Character
(Deutsche14を有効化、チェックキャラクタを送信)

注意: Deutsche 14、ITF-14、インターリーブ 2 of 5は同じエンコード方法であり、同時に使用するとデコード中に通信が混乱しやすくなるため、必要時を除きDeutsche 14を有効化しないことをおすすめします。

Deutsche 12

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Deutsche 12 (Deutsche 12の工場出荷時設定に戻す)

Deutsche 12を有効化/無効化



Enable Deutsche 12, Do Not Transmit Check Character
(Deutsche12を有効化、チェックキャラクタを送信しない)



Disable Deutsche 12 (Deutsche 12を無効化：初期設定)



Enable Deutsche 12, Transmit Check Character
(Deutsche12を有効化、チェックキャラクタを送信)

注意: Deutsche 12、ITF-12、インターリード2 of 5は同じエンコード方法であり、同時に使用するとデコード中に通信が混乱しやすくなるため、必要時を除きDeutsche 12を有効化しないことをおすすめします。

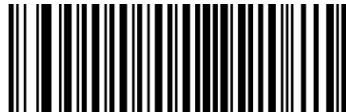
COOP 25 (日本仕様 Matrix 2 of 5)

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of COOP 25 (COOP 25の工場出荷時設定に戻す)

COOP 25を有効化/無効化

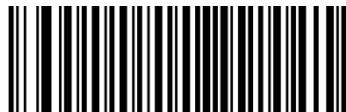


Enable COOP 25 (COOP 25を有効化)



Disable COOP 25 (COOP 25を無効化 : 初期設定)

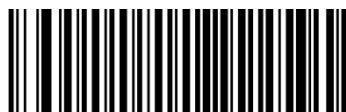
チェックキャラクタ検証



Disable (: 初期設定)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

COOP 25の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCOOP 25バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCOOP 25バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCOOP 25バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCOOP 25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

Matrix 2 of 5 (欧洲仕様Matrix 2 of 5)

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Matrix 2 of 5

(Matrix 2 of 5の工場出荷時設定に戻す)

Matrix 2 of 5を有効化/無効化



Enable Matrix 2 of 5 (Matrix 2 of 5を有効化：初期設定)



Disable Matrix 2 of 5 (Matrix 2 of 5を無効化)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化 : 初期設定)



Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

Matrix 2 of 5の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のMatrix 2 of 5バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つMatrix 2 of 5バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのMatrix 2 of 5バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のMatrix 2 of 5バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。

2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

インダストリアル 25

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Industrial 25
(インダストリアル 25の工場出荷時設定に戻す)

インダストリアル 25を有効化/無効化



Enable Industrial 25
(インダストリアル25を有効化：初期設定)



Disable Industrial 25
(インダストリアル25を無効化)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化 : 初期設定)



**Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)**



**Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)**

インダストリアル25の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のインダストリアル25バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つインダストリアル25バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのインダストリアル25バーコードしかデコードしません。



**Set the Minimum Length
(最小長さを設定)**



**Set the Maximum Length
(最大長さを設定)**

例: スキャナーが8~12 文字のインダストリアル25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。

2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

スタンダード25

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Standard 25

(スタンダード25の工場出荷時設定に戻す)

スタンダード25を有効化/無効化



Enable Standard 25

(スタンダード25を有効化：初期設定)



Disable Standard 25

(スタンダード25を無効化)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化 : 初期設定)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

スタンダード25の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のスタンダード25バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つスタンダード25バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのスタンダード25バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のスタンダード25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

Code 39

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 39
(Code 39の工場出荷時設定に戻す)

Code 39を有効化/無効化



Enable Code 39
(Code 39を有効化：初期設定)



Disable Code 39
(Code 39を無効化)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化：初期設定)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信

Code 39 は文字の先頭とストップキャラクタにアスタリスク(*) を使用します。以下の適切なバーコードをスキャンしてスタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信するか選択することができます。



Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信：初期設定)



Do Not Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)

Code 39 フルASCIIを有効化/無効化

スキャナーは以下の適切なバーコードをスキャンして全てのASCIIキャラクタを特定するよう設定できます。



Disable Code 39 Full ASCII
(Code 39 フルASCIIを無効化)

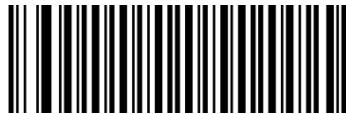


Enable Code 39 Full ASCII
(Code 39 フルASCIIを有効化：初期設定)

Code 39の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 39バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 39バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 39バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 39バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

Code 32を有効化/無効化

Code 32は、イタリアの製薬業界で使用されているCode 39の一種です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32を有効化または無効化します。このパラメータが機能するためには、Code 39 を有効し、Code 39 チェックキャラクタ認証を無効化する必要があります。



Disable Code 32 (Code 32を無効化: 初期設定)



Enable Code 32 (Code 32を有効化)

Code 32 プリフィックス

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードにプリフィックス「A」の追加を有効化または無効化します。このパラメータが機能するには、Code 32 を有効化する必要があります。



Disable Code 32 Prefix
*Disable Code 32 Prefix
(Code 32 プリフィックスを無効化: 初期設定)



Enable Code 32 Prefix
Enable Code 32 Prefix
(Code 32 プリフィックスを有効化)

Code 32 チェックキャラクタの送信

このパラメータが機能するためにはCode 32を有効化する必要があります。



Do Not Transmit Code 32 Check Character
(Code 32 チェックキャラクタを送信しない : 初期設定)



Transmit Code 32 Check Character
(Code 32 チェックキャラクタを送信)

Code 32スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信

このパラメータが機能するためにはCode 32を有効化する必要があります。



Do Not Transmit Code 32 Start/Stop Character
(Code 32 チェックキャラクタを送信しない : 初期設定)



Transmit Code 32 Start/Stop Character
(Code 32 チェックキャラクタを送信)

Codabar

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Codabar (Codabarの工場出荷時設定に戻す)

Codabarを有効化/無効化



Enable Codabar (Codabarを有効化：初期設定)



Disable Codabar (Codabarを無効化)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化：初期設定)



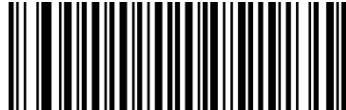
Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信



Do Not Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない)



Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信: 初期設定)



ABCD/ABCD as the Start/Stop Character

(ABCD/ABCDをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定: 初期設定)



ABCD/TN*E as the Start/Stop Character

(ABCD/TN*Eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)



abcd/abcd as the Start/Stop Character

(abcd/abcdをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)



abcd/tn*e as the Start/Stop Character

(abcd/tn*eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)

Codabarの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCodabarバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCodabarバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCodabarバーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCodabarバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

Code 93

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 93

(Code 93の工場出荷時設定に戻す)

Code 93を有効化/無効化



Enable Code 93 (Code 93を有効化：初期設定)



Disable Code 93 (Code 93を無効化)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信：初期設定)

Code 93の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 93バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 93バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 93バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 93バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

Code 11

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 11
(Code 11の工場出荷時設定に戻す)

Code 11を有効化/無効化



Enable Code 11 (Code 11を有効化)



Disable Code 11 (Code 11を無効化：初期設定)

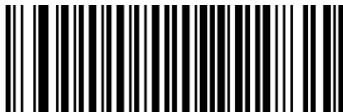
チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



One Check Character, MOD11
(1種のチェックキャラクタ、MOD11：初期設定)



Two Check Characters, MOD11/MOD11
(2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11)



Two Check Characters, MOD11/MOD9
(2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9)



One Check Character, MOD11 (Len <= 10)
Two Check Characters, MOD11/MOD11 (Len > 10)
(1種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10)
2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11(Len>10))



One Check Character, MOD11 (Len <= 10)
Two Check Characters, MOD11/MOD9 (Len > 10)
(1種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10)
2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9(Len>10))



Do Not Transmit Check Character
(Code 11 チェックキャラクタを送信しない：初期設定)

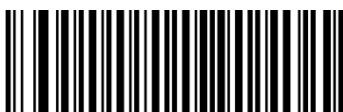


Transmit Check Character
(Code 11 チェックキャラクタを送信)

Code 11の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 11バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 11バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 11バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 11バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

Plessey

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Plessey
(Plesseyの工場出荷時設定に戻す)

Plesseyを有効化/無効化



Enable Plessey (Plesseyを有効化)



Disable Plessey (Plesseyを無効化 : 初期設定)

チェックキャラクタ検証



Disable



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信 : 初期設定)

Plesseyの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のPlesseyバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つPlesseyバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのPlesseyバーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のPlesseyバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。

MSI-Plessey

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of MSI-Plessey
(MSI-Plesseyの工場出荷時設定に戻す)

MSI-Plesseyを有効化/無効化



Enable MSI-Plessey (MSI-Plesseyを有効化)



Disable MSI-Plessey (MSI-Plesseyを無効化：初期設定)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



One Check Character, MOD10

(1種のチェックキャラクタ、MOD10：初期設定)



Two Check Characters, MOD10/MOD10
(2種のチェックキャラクタ、MOD10/MOD10)



Two Check Characters, MOD10/MOD11
(2種のチェックキャラクタ、MOD10/MOD11)



Do Not Transmit Check Character
(チェックキャラクタを送信しない：初期設定)



Transmit Check Character
(チェックキャラクタを送信)

MSI-Plesseyの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のMSI-Plesseyバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つMSI-Plesseyバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのMSI-Plesseyバーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字の MSI-Plesseyバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（1次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

GS1 Databar

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of GS1 Databar
(GS1 Databarの工場出荷時設定に戻す)

GS1 Databarを有効化/無効化



Enable GS1 Databar (GS1 Databarを有効化：初期設定)



Disable GS1 Databar (GS1 Databarを無効化)

2次元スキャナー

グローバル設定

全てのシンボロジーを有効化/無効化

Disable All Symbolologies (全てのシンボロジーを無効化) 機能を有効すると、スキャナーはプログラミングバーコード以外のバーコードを読み取ることができなくなります。



Enable All Symbolologies
(全てのシンボロジーを有効化)



Disable All Symbolologies
(全てのシンボロジーを無効化)

1次元シンボロジーを有効化/無効化

Disable 1D Symbolologies (1次元シンボロジーを無効化) 機能を有効すると、スキャナーは1次元バーコードを一切読み取ることができなくなります。



Enable 1D Symbolologies
(1次元シンボロジーを有効化)



Disable 1D Symbolologies
(1次元シンボロジーを無効化)

2次元シンボロジーを有効化/無効化

Disable 2D Symbolologies (2次元シンボロジーを無効化) 機能を有効すると、スキャナーは2次元バーコードを一切読み取ることができなくなります。



Enable 2D Symbolologies
(2次元シンボロジーを有効化)



Disable 2D Symbolologies
(2次元シンボロジーを無効化)

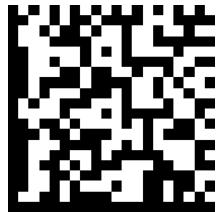
バーコードの白黒反転

白黒反転した全ての2次元バーコードのデコード有効化/無効化で使用されます。

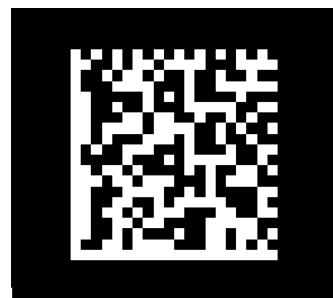
通常バーコード: 背景の色が明るく、バーの色が暗いです。

白黒反転バーコード: 背景の色が暗く、バーの色が明るいです。

通常バーコードと白黒反転バーコードの例は以下のとおりです。



通常バーコード



白黒反転バーコード

本スキャナーはバーコードの白黒反転機能がオンの場合、スキャン速度がわずかに減少します。



Decode Both (両方をデコード)



Decode All Regular 2D Barcodes Only

(通常の2次元バーコードのみデコード: 初期設定)

Code 128

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 128
(Code 128の工場出荷時設定に戻す)

Code 128を有効化/無効化



Enable Code 128 (Code 128を有効化：初期設定)



Disable Code 128 (Code 128を無効化)

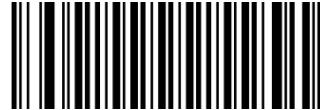
Code 128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 128バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of GS1-128
(GS1-128を工場出荷時設定に戻す)

GS1-128を有効化/無効化



Enable GS1-128 (GS1-128 を有効化 : 初期設定)



Disable GS1-128 (GS1-128を有効化)

GS1-128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のGS1-128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つGS1-128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのGS1-128バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のGS1-128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー) 」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー) 」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー) 」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー) 」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

AIM-128

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of AIM-128
(AIM-128の工場出荷時設定に戻す)

AIM-128 を有効化/無効化



Enable AIM-128 (AIM-128 を有効化/ : 初期設定)



Disable AIM-128 (AIM-128 を無効化)

AIM-128の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のAIM-128バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つAIM-128バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのAIM-128バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のAIM-128バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー) 」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー) 」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー) 」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー) 」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

EAN-8

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of EAN-8
(EAN-8の工場出荷時設定に戻す)

EAN-8 を有効化/無効化



Enable EAN-8 (EAN-8 を有効化/ : 初期設定)



Disable EAN-8 (EAN-8 を無効化)

チェックキャラクタの送信

EAN-8 は長さが8桁であり、末尾の1文字はデータの整合性を検証するチェックキャラクタです。



Transmit EAN-8 Check Character
(EAN-8チェックキャラクタを送信 : 初期設定)



Do Not Transmit EAN-8 Check Character
(EAN-8チェックキャラクタを送信しない)

アドオンコード

EAN-8バーコードは2桁または5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。

以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が EAN-8バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所がアドオンコードです。



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)

Disable 2-Digit Add-On Code/Enable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを無効化) :
EAN-8に2桁/5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-8 バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁/5桁のアドオンコードがないEAN-8バーコードもデコードすることができます。

Enable 2-Digit Add-On Code/Disable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを有効化) :
スキャナーは2桁/5桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードとアドオンコードがないEAN-8バーコードのどちらもデコードします。

アドオンのリクエスト

EAN-8 Add-On Code Required (EAN-8 のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-8バーコードのみ読み取ります。



EAN-8 Add-On Code Required
(EAN-8のアドオンコードをリクエスト)



EAN-8 Add-On Code Not Required
(EAN-8のアドオンコードをリクエストしない: 初期設定)

EAN-8拡張

Disable EAN-8 Zero Extend (EAN-8のゼロ拡張を無効化) : EAN-8バーコードをそのまま送信します。

Enable EAN-8 Zero Extend (EAN-8のゼロ拡張を有効化) : デコードしたEAN-8バーコードの先頭に5つのゼロを加えて13桁に拡張します。



Enable EAN-8 Zero Extend
(EAN-8のゼロ拡張を有効化)



Disable EAN-8 Zero Extend
(EAN-8のゼロ拡張を無効化)

EAN-13

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of EAN-13
(EAN-13の工場出荷時設定に戻す)

EAN-13 を有効化/無効化



Enable EAN-13 (EAN-13 を有効化：初期設定)



Disable EAN-13 (EAN-13 を無効化)

チェックキャラクタの送信



Transmit EAN-13 Check Character
(EAN-13チェックキャラクタを送信：初期設定)



Do Not Transmit EAN-13 Check Character
(EAN-13チェックキャラクタを送信しない)

アドオンコード

EAN-13バーコードは2桁または5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)

Enable 2-Digit Add-On Code/Disable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを有効化) :

スキャナーは2桁/5桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードとアドオンコードがないEAN-13バーコードのどちらもデコードします。

Disable 2-Digit Add-On Code/Enable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを無効化) :

EAN-13に2桁/5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはEAN-13バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁/5桁のアドオンコードがないEAN-13バーコードもデコードすることができます。

アドオンのリクエスト

EAN-13 Add-On Code Required (EAN-13のアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのEAN-13バーコードのみ読み取ります。



EAN-13 Add-On Code Required
(EAN-13のアドオンコードをリクエスト)



EAN-13 Add-On Code Not Required
(EAN-13のアドオンコードをリクエストしない)

290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト (BS8060-2T用)

この設定は、「290」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストする) :EAN-13バーコードが全て「290」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストしない) : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code (: 初期設定)
(アドオンコードをリクエストしない: 初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト (BS8060-2T用)

この設定は、「378」または「379」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない: 初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト (BS8060-2T用)

この設定は、「414」または「419」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）:EAN-13バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）: **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code (：初期設定)
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト (BS8060-2T用)

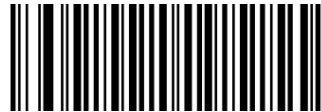
この設定は、「434」または「439」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストする) :EAN-13バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code (アドオンコードをリクエストしない) : **Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト (BS8060-2T用)

この設定は、「977」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「977」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：Require Add-On Codeを選択後、この機能を無効化する場合、Do Not Require Add-On Codeをスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト (BS8060-2T用)

この設定は、「978」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「978」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：Require Add-On Codeを選択後、この機能を無効化する場合、Do Not Require Add-On Codeをスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト (BS8060-2T用)

この設定は、「979」で始まるEAN-13バーコードにアドオンコード（2桁または5桁）をリクエストするようにスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストする）：EAN-13バーコードが全て「979」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストします。アドオンコード付きのEAN-13バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、EAN-13バーコードは破棄されます。

Do Not Require Add-On Code（アドオンコードをリクエストしない）：**Require Add-On Code**を選択後、この機能を無効化する場合、**Do Not Require Add-On Code**をスキャンします。EAN-13バーコードが「Add-On Code Required」機能の選択に応じて処理されます。



Do Not Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストしない：初期設定)



Require Add-On Code
(アドオンコードをリクエストする)

ISSN

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of ISSN (ISSNを工場出荷時設定に戻す)

ISSN を有効化/無効化



Enable ISSN (ISSN を有効化)



Disable ISSN (ISSN を無効化：初期設定)

アドオンコード

ISSNバーコードは2桁または5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)

Enable 2-Digit Add-On Code/Disable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを有効化) :
スキャナーは2桁/5桁のアドオンコードがあるISSNバーコードとアドオンコードがないISSNバーコードのどちらもデコードします。

Disable 2-Digit Add-On Code/Enable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを無効化) :
ISSNに2桁/5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはISSNバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁/5桁のアドオンコードがないISSNバーコードもデコードすることができます。

アドオンのリクエスト

ISSN Add-On Code Required (ISSNのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのISSNバーコードのみ読み取ります。



ISSN Add-On Code Required
(ISSNのアドオンコードをリクエスト)



ISSN Add-On Code Not Required
(ISSNのアドオンコードをリクエストしない: 初期設定)

ISBN

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of ISBN
(ISBNの工場出荷時設定に戻す)

ISBN を有効化/無効化



Enable ISBN (ISBN を有効化 : 初期設定)



Disable ISBN (ISBN を無効化)

ISBNフォーマットの設定



ISBN-13 (: 初期設定)



ISBN-10

アドオンコード

ISBNバーコードは2桁または5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)

Enable 2-Digit Add-On Code/Disable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを有効化)：スキャナーは2桁/5桁のアドオンコードがあるISBNバーコードとアドオンコードがないISBNバーコードのどちらもデコードします。

Disable 2-Digit Add-On Code/Enable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを無効化)：ISBNに2桁/5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはISBNバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁/5桁のアドオンコードがないISBNバーコードもデコードすることができます。

アドオンのリクエスト

ISBN Add-On Code Required (ISBNのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキャナーはアドオンコード付きのISBNバーコードのみ読み取ります。



ISBN Add-On Code Required
(ISBNのアドオンコードをリクエスト)



ISBN Add-On Code Not Required
(ISBNのアドオンコードをリクエストしない：初期設定)

UPC-E

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of UPC-E
(UPC-Eの工場出荷時設定に戻す)

UPC-E を有効化/無効化



Enable UPC-E (UPC-E を有効化 : 初期設定)



Disable UPC-E (UPC-E を無効化)

チェックキャラクタの送信



Transmit UPC-E Check Character
(UPC-Eチェックキャラクタを送信 : 初期設定)



Do Not Transmit UPC-E Check Character
(UPC-Eチェックキャラクタを送信しない)

アドオンコード

UPC-Eバーコードは2桁または5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。



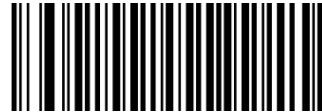
Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)

Enable 2-Digit Add-On Code/Disable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを有効化) :
スキャナーは2桁/5桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとアドオンコードがないUPC-Eバーコードのどちらもデコードします。

Disable 2-Digit Add-On Code/Enable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを無効化) :
UPC-Eに2桁/5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-Eバーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁/5桁のアドオンコードがないUPC-Eバーコードもデコードすることができます。

アドオンのリクエスト

UPC-E Add-On Code Required (UPC-Eのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキヤナーはアドオンコード付きのUPC-Eバーコードのみ読み取ります。



UPC-E Add-On Code Required
(UPC-Eのアドオンコードをリクエスト)



UPC-E Add-On Code Not Required
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストしない：初期設定)

システムキャラクタ「0」の送信

UPC-Eバーコードの先頭の文字はシステムキャラクタ「0」です。



Transmit System Character “0”
(システムキャラクタ「0」を送信：初期設定)



Do Not Transmit System Character “0”
(システムキャラクタ「0」を送信しない)

UPC-E 拡張

Disable UPC-E Zero Extend (UPC-Eのゼロ拡張を無効化) : UPC-Eバーコードをそのまま送信します。

Enable UPC-E Zero Extend (UPC-Eのゼロ拡張を有効化) : UPC-EバーコードのUPC-Aに合わせた長さへ拡張します。



Enable UPC-E Extend
(UPC-Eの拡張を有効化)



Disable UPC-E Extend
(UPC-Eの拡張を無効化：初期設定)

UPC-A

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of UPC-A
(UPC-Aの工場出荷時設定に戻す)

UPC-Aを有効化/無効化



Enable UPC-A (UPC-Aを有効化：初期設定)



Disable UPC-A (UPC-Aを無効化)

チェックキャラクタの送信



Transmit UPC-A Check Character
(UPC-Aチェックキャラクタを送信：初期設定)



Do Not Transmit UPC-A Check Character
(UPC-Aチェックキャラクタを送信しない)

アドオンコード

UPC-Aバーコードは2桁または5桁のアドオンコードで増強して、新たに形成できます。



Enable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを有効化)



Disable 2-Digit Add-On Code
(2桁のアドオンコードを無効化：初期設定)



Enable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを有効化)



Disable 5-Digit Add-On Code
(5桁のアドオンコードを無効化：初期設定)

Enable 2-Digit Add-On Code/Disable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを有効化) :
スキャナーは2桁/5桁のアドオンコードがあるUPC-A バーコードとアドオンコードがないUPC-A バーコードのどちらもデコードします。

Disable 2-Digit Add-On Code/Enable 5-Digit Add-On Code (2桁/5桁のアドオンコードを無効化) :
UPC-A に2桁/5桁のアドオンコードが付属している場合、スキャナーはUPC-A バーコードをデコードし、アドオンコードを無視します。2桁/5桁のアドオンコードがないUPC-A バーコードもデコードすることができます。

アドオンのリクエスト

UPC-A Add-On Code Required (UPC-Aのアドオンコードをリクエスト) を選択すると、スキヤナーはアドオンコード付きのUPC-Aバーコードのみ読み取ります。



UPC-A Add-On Code Required
(UPC-Aのアドオンコードをリクエスト)



UPC-A Add-On Code Not Required
(UPC-Eのアドオンコードをリクエストしない：初期設定)

プリアンブルキャラクタの送信

プリアンブルキャラクタ（国コードとシステムキャラクタ）は、UPC-Aバーコードの一部として送信できます。UPC-Aプリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コード（アメリカは「0」）のいずれかの送信方法を選択します。



System Character & Country Code
(システムキャラクタ&国コード)



System Character
(システムキャラクタ : 初期設定)



No Preamble (プリアンブルなし)

インターリード 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Interleaved 2 of 5
(インターリード2 of 5を工場出荷時設定に戻す)

インターリード2 of 5を有効化/無効化



Enable Interleaved 2 of 5
(インターリード2 of 5を有効化：初期設定)



Disable Interleaved 2 of 5
(インターリード2 of 5を無効化)

インターリード2 of 5の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のインターリード2 of 5バーコードのみデコードする
ように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのい
ずれかを持つインターリード2 of 5バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ
場合、その長さのインターリード2 of 5バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のインタリープ ド2 of 5バーコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

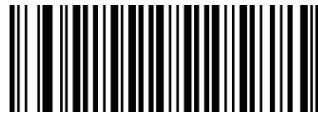
チェックキャラクタ検証

チェックキャラクタはインタリープド2 of 5のオプションであり、最後の文字として追加できるデータの整合性検証使用の計算値です。

Disable (無効化) : 本体はインタリープド2 of 5をそのまま送信します。

Do Not Transmit Check Character After Verification (検証後にチェックキャラクタを送信しない) : 本体は、インタリープド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに対応しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

Transmit Check Character After Verification (検証後、チェックキャラクタを送信) : 本体は、インタリープド2 of 5の整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクタのアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



Disable (無効化 : 初期設定)



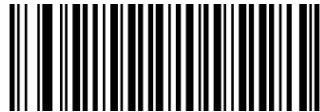
Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)

ITF-14

ITF-14 は長さが14文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリープド2 of 5 です。



Restore the Factory Defaults of ITF-14
(ITF-14の工場出荷状態に戻す)



Disable ITF-14
(ITF-14を無効化)



Enable ITF-14 But Do Not Transmit Check Character
(ITF-14を有効化、チェックキャラクタを送信しない：初期設定) Enable ITF-14 But Transmit Check Character
(ITF-14を有効化、チェックキャラクタを送信しない)

注意: ITF-14とインタリープド 2 of 5を同時に有効化しないことをおすすめします。

ITF-6

ITF-6 は長さが6文字で末尾の文字がチェックキャラクタになっている特殊なインタリープド2 of 5 です。



Restore the Factory Defaults of ITF-6
(ITF-6の工場出荷時設定に戻す)



Disable ITF-6 (ITF-6を有効化：初期設定)



Enable ITF-6 But Do Not Transmit Check Character
(ITF-6を有効化、チェックキャラクタを送信しない)



Enable ITF-6 and Transmit Check Character
(ITF-6を有効化、チェックキャラクタを送信)

注意: ITF-6とインタリープド 2 of 5を同時に有効化しないことをおすすめします。

Matrix 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Matrix 2 of 5
(Matrix 2 of 5の工場出荷時設定に戻す)

Matrix 2 of 5 を有効化/無効化



Enable Matrix 2 of 5
(Matrix 2 of 5 を有効化)



Disable Matrix 2 of 5
(Matrix 2 of 5 を無効化 : 初期設定)

Matrix 2 of 5の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のMatrix 2 of 5バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つMatrix 2 of 5バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのMatrix 2 of 5バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字の Matrix 2 of 5バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証

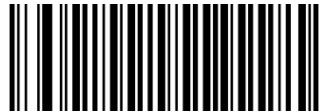


Disable (無効化)



Do Not Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信しない：初期設定)



Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信)

インダストリアル 2 of 5

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Industrial 2 of 5
(インダストリアル 2 of 5の工場出荷時設定に戻す)

インダストリアル2 of 5を有効化/無効化



Enable Industrial 2 of 5
(インダストリアル2 of 5を有効化：初期設定)



Disable Industrial 2 of 5
(インダストリアル2 of 5を無効化)

インダストリアル25の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のインダストリアル 25バーコードのみデコードするよう設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つインダストリアル25バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのインダストリアル25バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字の インダストリアル25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化 : 初期設定)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

スタンダード 25 (IATA 2 of 5)

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Standard 25

(スタンダード25を工場出荷時設定に戻す)

スタンダード 25を有効化/無効化



Enable Standard 25

(スタンダード 25を有効化 : 初期設定)



Disable Standard 25

(スタンダード 25を無効化)

スタンダード25の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のスタンダード25バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つスタンダード25バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのスタンダード25バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のスタンダード25バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー)」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー)」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー)」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー)」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化: 初期設定)



Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

Code 39

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 39
(Code 39の工場出荷時設定に戻す)

Code 39を有効化/無効化



Enable Code 39 (Code 39を有効化：初期設定)



Disable Code 39 (Code 39を無効化)

スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信



Transmit Start/Stop Character
トキャラクタ/ストップキャラクタを送信)



Do not Transmit Start/Stop Character
(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない：初期設定)

Code 39の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 39バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 39バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 39バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 39バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化 : 初期設定)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

Code 39 フルASCIIを有効化/無効化

スキャナーは以下の適切なバーコードをスキャンして全てのASCIIキャラクタを特定するよう設定できます。



Enable Code 39 Full ASCII
(Code 39 フルASCIIを有効化 : 初期設定)



Disable Code 39 Full ASCII
(Code 39 フルASCIIを無効化)

Code 32 (BS8060-2T用)を有効化/無効化

Code 32は、イタリアの製薬業界で使用されているCode 39の一種です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32を有効化または無効化します。このパラメータが機能するためには、Code 39 を有効し、Code 39 チェックキャラクタ認証を無効化する必要があります。



Disable Code 32 (Code 32を無効化 : 初期設定)



Enable Code 32 (Code 32を有効化)

Code 32 プリフィックス (BS8060-2T用)

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードにプリフィックス「A」の追加を有効化または無効化します。このパラメータが機能するには、Code 32 を有効化する必要があります。



Disable Code 32 Prefix
(Code 32プリフィックスを無効化 : 初期設定)



Enable Code 32 Prefix
(Code 32プリフィックスを有効化)

Code 32チェックキャラクタを送信 (BS8060-2T用)

このパラメータが機能するためにはCode 32を有効化する必要があります。



Do Not Transmit Code 32 Check Character
(Code 32チェックキャラクタを送信しない)



Transmit Code 32 Check Character
(Code 32チェックキャラクタを送信)

Code 32スタートキャラクタ/トップキャラクタの送信 (BS8060-2T用)

このパラメータが機能するためにはCode 32を有効化する必要があります。



Do Not Transmit Code 32 Start/Stop Character (: 初期設定) (Code 32スタートキャラクタ/トップキャラクタを送信しない : 初期設定)



Transmit Code 32 Start/Stop Character
(Code 32スタートキャラクタ/トップキャラクタを送信)

Codabar

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Codabar
(Codabarの工場出荷時設定に戻す)

Codabarを有効化/無効化



Enable Codabar (Codabarを有効化：初期設定)



Disable Codabar (Codabarを無効化)

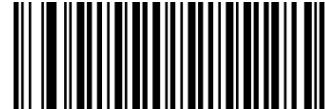
Codabarの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCodabarバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCodabarバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCodabarバーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCodabarバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化 : 初期設定)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない)

スタートキャラクタ/ストップキャラクタの送信



Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信)



Do not Transmit Start/Stop Character

(スタートキャラクタ/ストップキャラクタを送信しない：初期設定)

スタートキャラクタ/ストップキャラクタのフォーマット

以下の適切なバーコードをスキャンして必要なスタートキャラクタ/ストップキャラクタのフォーマットを選択できます。



ABCD/ABCD as the Start/Stop Character (ABCD/ABCDをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定：初期設定)



ABCD/TN*E as the Start/Stop Character (ABCD/TN*Eをスタートキャラクタ/ストップキャラクタに設定)



Start/Stop Character in Uppercase
(大文字のスタート/ストップキャラクタ)



Start/Stop Character in Lowercase
(小文字のスタート/ストップキャラクタ)

Code 93

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 93
(Code 93の工場出荷時設定に戻す)

Code 93を有効化/無効化



Enable Code 93 (Code 93を有効化：初期設定)



Disable Code 93 (Code 93を無効化)

Code 93の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 93バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 93バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 93バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 93バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



Do Not Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信しない：初期設定)



Transmit Check Character After Verification

(検証後にチェックキャラクタを送信)

GS1-Databar (RSS)

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of GS1-Databar
(GS1-Databarの工場出荷時設定に戻す)

GS1 Databarを有効化/無効化



Enable GS1-Databar (GS1-Databarを有効化：初期設定)



Disable GS1-Databar (GS1-Databarを無効化)

Code 11

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Code 11
(Code 11の工場出荷時状態に戻す)

Code 11を有効化/無効化



Enable Code 11 (Code 11を有効化：初期設定)



Disable Code 11 (Code 11を無効化)

Code 11の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のCode 11バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つCode 11バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのCode 11バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のCode 11バーコードをデコードするように設定する方法

1. Set the Minimum Lengthバーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。
4. Set the Maximum Lengthバーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。

チェックキャラクタの送信



Transmit Check Character
(チェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character
(チェックキャラクタを送信しない: 初期設定)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



One Check Character, MOD11
(1種のチェックキャラクタ、MOD11: 初期設定)



Two Check Characters, MOD11/MOD11
(2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11)



Two Check Characters, MOD11/MOD9
(2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9)



One Check Character, MOD11 (Len<=10) Two Check Characters, MOD11/MOD11 (Len>10)

(1種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10) 2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11 (Len>10))



One Check Character, MOD11 (Len<=10) Two Check Characters, MOD11/MOD9 (Len>10)

(1種のチェックキャラクタ、MOD11 (Len<=10) 2種のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9 (Len>10))

Plessey

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Plessey
(Plesseyの工場出荷時設定に戻す)

Plesseyを有効化/無効化



Enable Plessey (Plesseyを有効化：初期設定)



Disable Plessey ((Plesseyを無効化)

Plesseyの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のPlesseyバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つPlesseyバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのPlesseyバーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のPlesseyバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

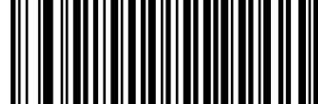
チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



Do Not Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信しない: 初期設定)



Transmit Check Character After Verification
(検証後にチェックキャラクタを送信)

MSI-Plessey

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of MSI-Plessey
(MSI-Plesseyの工場出荷時設定に戻す)

MSI-Plesseyを有効化/無効化



Enable MSI-Plessey (MSI-Plesseyを有効化：初期設定)



Disable MSI-Plessey (MSI-Plesseyを無効化)

MSI-Plesseyの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のMSI-Plesseyバーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つMSI-Plesseyバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのMSI-Plesseyバーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字の MSI-Plesseyバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

チェックキャラクタの送信



Transmit Check Character
(チェックキャラクタを送信)



Do Not Transmit Check Character
(チェックキャラクタを送信しない : 初期設定)

チェックキャラクタ検証



Disable (無効化)



One Check Character, MOD11
(1種のチェックキャラクタ、MOD11 : 初期設定)



Two Check Characters, MOD10/MOD10
(2種のチェックキャラクタ、MOD10/MOD10)



Two Check Characters, MOD10/MOD11
(2種のチェックキャラクタ、MOD10/MOD11)

PDF 417

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of PDF 417
(PDF 417の工場出荷時設定に戻す)

PDF 417を有効化/無効化



Enable PDF 417 (PDF 417を有効化：初期設定)



Disable PDF 417 (PDF 417を無効化)

PDF 417の長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のPDF 417バーコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つPDF 417バーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのPDF 417バーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字の PDF 417バーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。

PDF 417 ツインコード

PDF417ツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのPDF417バーコードです。2つのPDF417バーコードは必ず通常または白黒反転したPDF417バーコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

PDF417ツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

Single PDF417 Only (いずれかのPDF417のみ) : いずれか一方のPDF417バーコードのみ読み取ります。

Twin PDF417 Only(両方のPDF417のみ) : 両方のPDF417バーコードを読み込みます。

Both Single & Twin (いずれか一方&両方) : 両方のPDF417バーコードを読み込みます。成功すると、両方のPDF417バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方のPDF417バーコードのみ送信します。



Single PDF417 Only (いずれかのPDF417のみ : 初期設定)



Twin PDF417 Only(両方のPDF417のみ)



Both Single & Twin (いずれか一方&両方)

白黒反転バーコードの読み取りを有効化する場合、グローバル設定の「白黒反転バーコード」を参照してください。

QRコード

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of QR Code
(QRコードの工場出荷時設定に戻す)

QRコードを有効化/無効化



Enable QR Code (QRコードを有効化: 初期設定)



Disable QR Code (QRコードを無効化)

Micro QR



Enable Micro QR (Micro QRコードを有効化: 初期設定)



**Disable Micro QR (Micro QRコードを無効化)

QRコードの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のQRコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つQRコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのQRコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12文字のQRコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

QR ツインコード

QRツインコードは 垂直または水平に並んだ2つのQRコードです。2つのQRコードは必ず通常または白黒反転したQRコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

QRツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

Single QR Only (いずれかのQRコードのみ) : いずれか一方のQRコードのみ読み取ります。

Twin QR Only(両方のQRコードのみ) : 両方のQRコードを読み込みます。

Both Single & Twin (いずれか一方&両方) : 両方のQRコードを読み込みます。 成功すると、両方のQRコードを送信し、失敗すると、いずれか一方のQRコードのみ送信します。



Single QR Only (いずれかのQRコードのみ : 初期設定)



Twin QR Only
(両方のQRコードのみ)



Both Single & Twin
(いずれか一方&両方)

白黒反転バーコードの読み取りを有効化する場合、グローバル設定の「白黒反転バーコード」を参照してください。

データマトリックス

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Data Matrix
(データマトリックスの工場出荷時設定に戻す)

データマトリックスを有効化/無効化



Enable Data Matrix (データマトリックスを有効化：初期設定)



Disable Data Matrix (データマトリックスを無効化)

データマトリックスの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のデータマトリックスバーコードのみデコードするようになります。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つデータマトリックスバーコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのデータマトリックスバーコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字のデータマトリックスバーコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー)」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー)」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード (2次元スキャナー)」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー)」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

長方形バーコード



Enable Rectangular Barcode
(長方形バーコードを有効化：初期設定)



Disable Rectangular Barcode
(長方形バーコードを無効化)

ミラーイメージ



Decode Mirror Images
(ミラーイメージをデコード：初期設定)



Do Not Decode Mirror Images
(ミラーイメージをデコードしない)

データマトリックスツインコード

データマトリックスツインコードは垂直または水平に並んだ2つのデータマトリックスコードです。2つのデータマトリックスコードは必ず通常または白黒反転したデータマトリックスコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

データマトリックスツインコードには3種類の読み取りオプションがあります。

Single Data Matrix Only (いずれかのデータマトリックスコードのみ) : いずれか一方のデータマトリックスコードのみ読み取ります。

Twin Data Matrix Only (両方のデータマトリックスコードのみ) : 両方のデータマトリックスコードを読み込みます。

Both Single & Twin (いずれか一方&両方) : 両方のデータマトリックスコードを読み込みます。成功すると、両方のデータマトリックスコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方のデータマトリックスコードのみ送信します。



Single Data Matrix Only

(いずれかのデータマトリックスコードのみ : 初期設定)



Twin Data Matrix Only

(両方のデータマトリックスコードのみ)



Both Single & Twin

(いずれか一方&両方)

白黒反転バーコードの読み取りを有効化する場合、グローバル設定の「白黒反転バーコード」を参照してください。

Chinese Sensible コード

ハードウェアのバージョンがV5.X以上の場合、Chinese Sensible コードに対応できません。ハードウェアのバージョンがV3.X以下の場合は、中国語のSensible コードに対応できません。

工場出荷時設定に戻す



Restore the Factory Defaults of Chinese Sensible Code
(Chinese Sensible コードの工場出荷時設定に戻す)

Chinese Sensible コードを有効化/無効化



Enable Chinese Sensible Code
(Chinese Sensible コードを有効化)



Disable Chinese Sensible Code
(Chinese Sensible コードを無効化：初期設定)

Chinese Sensibleコードの長さ調節

スキャナーが最小長さ以上、最大長さ以下のChinese Sensibleコードのみデコードするように設定できます。これを実行するためには最小長さと最大長さを設定する必要があります。

最小長さが最大長さより大きく設定されている場合、スキャナーは最小長さまたは最大長さのいずれかを持つChinese Sensibleコードしかデコードしません。最小長さと最大長さが同じ場合、その長さのChinese Sensibleコードしかデコードしません。



Set the Minimum Length
(最小長さを設定)



Set the Maximum Length
(最大長さを設定)

例: スキャナーが8~12 文字の Chinese Sensibleコードをデコードするように設定する方法

1. **Set the Minimum Length**バーコードをスキャンします。
2. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」をスキャンします。
3. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。
4. **Set the Maximum Length**バーコードをスキャンします。
5. 付録 の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
6. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

白黒反転バーコードの読み取りを有効化する場合、グローバル設定の「白黒反転バーコード」を参照してください。

第4章 プリフィックス & サフィックス

1次元スキナー

バーコードの読み取りに完了した場合、数字、文字、記号を含む文字列が返されます。

実際の利用において、バーコードデータでは不十分な場合があります。バーコードの種類やデータ取得時間、区切り文字などの情報をスキャンデータに付加が必要な場合があります。

しかし、印刷されたバーコードに情報を付加することは、バーコードのサイズを大きくし、柔軟性を失わせるため、あまり賢明な解決策とは言えません。そこで、バーコードに変更を加えることなく、データにプリフィックスとサフィックスを付加することを検討します。本章では、その設定方法を紹介します。

スキナーは、以下のフォーマットでバーコードデータを送信するように設定することができます。

[コードID] + [カスタムプリフィックス] + [データ] + [カスタムサフィックス] + [ストップキャラクタ]。

注意：[データ]は必ず送信し、残りの部分を送信するかどうかはユーザーが決めることができます。

プリフィックスシーケンス



Code ID+Custom+AIM ID (初期設定)



Custom+Code ID+AIM ID

カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックスを有効化/無効化

カスタムプリフィックスを有効にすると、データに11文字を超えないユーザー定義のプリフィックスを付加することができます。

例えば、バーコードデータが「123」で、カスタムプリフィックスが「AB」 の場合、ホスト機器は「AB123」を受信します。



Disable Custom Prefix
(カスタムプリフィックスの無効化: 初期設定)



Enable Custom Prefix
(カスタムプリフィックスの有効)

カスタムプリフィックスの設定

カスタムプリフィックスを設定する場合、**Set Custom Prefix**バーコードをスキャンし、次に必要なプリフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムプリフィックスは、11文字を超えることはできません。



Set Custom Prefix
(カスタムプリフィックスを設定)

例：カスタムプリフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Set Custom Prefix** バーコードをスキャンします。
2. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードを保存/キャンセル (1次元スキャナー)」セクションの**Save** バーコードをスキャンします。

AIM ID プリフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers : 自動認識工業会) ID は、シンボロジー識別子を定義します（詳細については、付録の「AIM ID 表（1 次元スキャナー）」のセクションを参照してください）。AIM ID プリフィックスを有効にすると、スキャナーは読み取り後のスキャンデータの前にシンボロジー識別子を追加します。



Enable AIM ID Prefix
(AIM ID プリフィックスを有効化)



Disable AIM ID Prefix
(AIM ID プリフィックスを無効化 : 初期設定)

Code ID プリフィックス

Code IDは、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM IDとは異なり、Code IDはユーザーがプログラムできます。CodeIDは、1文字または2文字の英字で構成されています。



Disable Code ID Prefix
(Code IDプリフィックスを無効化：初期設定)



Enable Code ID Prefix
(Code IDプリフィックスを有効化)

カスタムサフィックス

カスタムサフィックスを有効化/無効化

カスタムサフィックスを有効にすると、データに11文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。例えば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「123AB」を受信します。



Disable Custom Suffix
(カスタムサフィックスを無効化：初期設定)



Enable Custom Suffix
(カスタムサフィックスを有効化)

カスタムサフィックスの設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix**バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。

注意：カスタムサフィックスは、11文字を超えることはできません。



Set Custom Suffix (カスタムサフィックスの設定)

例:カスタムサフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. **Set Custom Suffix**バーコードをスキャンします。
2. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (1次元スキャナー)」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

ストップキャラクタサフィックス

ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化

キャリッジリターン (CR) やキャリッジリターン/改行コードのペア (CRLF) などのストップキャラクタは、データの終わりを示すためにのみ使用でき、その後に何も追加できないことを意味します。ストップキャラクタのサフィックスは7文字を超えることはできません。



Disable Terminating Character Suffix
(ストップキャラクタサフィックスを有効化 : 初期設定)



Enable Terminating Character Suffix
(ストップキャラクタサフィックスを無効化)

ストップキャラクタサフィックスの設定

ストップキャラクタのサフィックスを設定する場合、**Set Terminating Character Suffix**（ストップキャラクタを設定）バーコード、希望するストップキャラクタのHEX値を表す数字バーコード、および**Save**バーコードをスキャンしてください。

また、以下の**Terminating Character 0x0D (CR)**（ストップキャラクタをCR (0x0D)に設定）または**Terminating Character 0x0D,0x0A (CRLF)**（ストップキャラクタをCRLF (0x0D,0x0A)に設定）

バーコードをスキャンすると、ストップキャラクタのサフィックスを0x0D (CR) または0x0D,0x0A (CRLF) へすぐ設定して送信できるようにすることができます。



Terminating Character 0x0D (CR)
(ストップキャラクタをCR (0x0D)に設定)



Terminating Character 0x0D,0x0A (CRLF)
(ストップキャラクタをCRLF (0x0D,0x0A)に設定)



Set Terminating Character Suffix
(ストップキャラクタサフィックスを設定)

例: ストップキャラクタを「0x0A」(LF)に設定する方法

1. **Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
2. 「英数字バーコード」セクションにある数字バーコード「0」、「A」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（1次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

2次元スキャナー

多くの利用場面では、バーコードデータを編集し、互いに区別する必要があります。

通常、AIM IDとCode IDが識別子として使用されますが、カスタマイズされたプレフィックスとキャリッジリターンやラインフィードなどのストップキャラクタのサフィックスが代替となる場合もあります。

データのフォーマッティングには、以下のようなものが含まれます。

- ✧ デコードデータの前にAIM ID/Code ID/カスタムプレフィックスを付加
- ✧ デコードデータの後にカスタムサフィックスを付加
- ✧ データ末尾にストップキャラクタを付加

バーコードデータを編集する場合、以下のフォーマットを使用することができます。

- ✧ [Code ID] + [カスタムプレフィックス] + [AIM ID] + [DATA] + [カスタムサフィックス] + [ストップキャラクタ]
- ✧ [カスタムプレフィックス] + [Code ID] + [AIM ID] + [DATA] + [カスタムサフィックス] + [ストップキャラクタ]

プリフィックスシーケンス



Code ID+Custom Prefix+AIM ID
(Code ID+カスタムプリフィックス+AIM ID)



Custom Prefix+Code ID+AIM ID
(カスタムプリフィックス+Code ID+AIM ID : 初期設定)

カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックスを有効化/無効化

カスタムサフィックスを有効にすると、データに11文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。



Enable Custom Prefix
(カスタムサフィックスを無効化)



Disable Custom Prefix
(カスタムサフィックスを有効化: 初期設定)

カスタムサフィックスの設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix**バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。文字のHEX値については付録の「ASCII表」を参照してください。

注意：カスタムサフィックスは、11文字を超えることはできません。



Set Custom Prefix (カスタムサフィックスの設定)

例: カスタムサフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

1. ASCII表で「CODE」のHEX値(「CODE」: 43, 4F, 44, 45)を確認します。
2. **Set Custom Prefix**バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード (2次元スキャナー)」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー)」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。

AIM ID プリフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers : 自動認識工業会) ID と ISO/IEC 15424 規格は、シンボロジー識別子を定義します（詳細については、付録の「AIM ID 表（2 次元スキャナー）」のセクションを参照してください）。AIM ID プリフィックスを有効にすると、スキャナーは読み取り後のスキャンデータの前にシンボロジー識別子を追加します。



Enable AIM ID Prefix
(AIM ID プリフィックスを有効化)



Disable AIM ID Prefix
(AIM ID プリフィックスを無効化 : 初期設定)

Code ID プリフィックス

Code IDは、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM IDとは異なり、Code IDはユーザーがプログラムできます。CodeIDは、1文字または2文字の英字で構成されています。



Enable Code ID Prefix
(Code ID プリフィックスを有効化)



Disable Code ID Prefix
(Code ID プリフィックスを無効化 : 初期設定)

全てのデフォルトのCode IDを復元

デフォルトのCode IDについては、付録の「Code ID表（2次元スキャナー）」の項目を参照してください。



Restore All Default Code IDs (全てのデフォルトのCode IDを復元)

Code IDを変更

各シンボロジーのCode IDは個別にプログラムすることができます。Code IDのプログラム方法については、次の例を参照してください。

例: PDF417の Code ID を「p」に設定する方法

1. ASCII 表で「p」のHEX値(「p」:70)をチェックします。
2. **Modify PDF417 Code ID** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある数字バーコード「7」、「3」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。



Modify PDF417 Code ID
(PDF417 Code IDを変更)



Modify Data Matrix Code ID
(データマトリックス Code IDを変更)



Modify QR Code ID
(QR Code IDを変更)



Modify Chinese Sensible Code ID
(Chinese Sensible Code IDを変更)



Modify Code 128 Code ID
(Code 128 Code IDを変更)



Modify GS1-128 Code ID
(GS1-128 Code IDを変更)



Modify AIM-128 Code ID
(AIM-128 Code IDを変更)



Modify EAN-8 Code ID
(EAN-8 Code IDを変更)



Modify EAN-13 Code ID
(EAN-13 Code IDを変更)



Modify UPC-E Code ID
(UPC-E Code IDを変更)



Modify UPC-A Code ID
(UPC-A Code IDを変更)



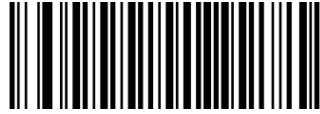
Modify ISBN Code ID
(ISBN Code IDを変更)



Modify ISSN Code ID
(ISSN Code IDを変更)



Modify Code 39 Code ID
(Code 39Code IDを変更)



Modify Code 93 Code ID
(Code 93Code IDを変更)



Modify Interleaved 2 of 5 Code ID
(インターリード2 of 5Code IDを変更)



Modify ITF-14 Code ID
(ITF-14 Code IDを変更)



Modify ITF-6 Code ID
(ITF-6 Code IDを変更)



Modify Codabar Code ID
(Codabar Code IDを変更)



Modify Industrial 25 Code ID
(インダストリアル25Code IDを変更)



Modify Standard 25 Code ID
(スタンダード25Code IDを変更)



Modify Matrix 25 Code ID
(Matrix 25Code IDを変更)



Modify COOP 25 Code ID
(COOP 25 Code IDを変更)



Modify Code 11 Code ID
(Code 11 Code IDを変更)



Modify Plessey Code ID
(Plessey Code IDを変更)



Modify MSI/Plessey Code ID
(MSI/Plessey Code IDを変更)



Modify GS1 Databar Code ID
(GS1 Databar Code IDを変更)

カスタムサフィックス

カスタムサフィックスを有効化/無効化

カスタムサフィックスを有効にすると、データに11文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。



Enable Custom Suffix

(カスタムサフィックスを有効化)



Disable Custom Suffix

(カスタムサフィックスを無効化：初期設定)

カスタムサフィックスの設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix**バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスのHEX値に対応する数字バーコードをスキャンし、**Save**バーコードをスキャンして完了です。文字のHEX値については付録の「ASCII表」を参照してください。

注意：バージョンV5.X以上のハードウェアのカスタムサフィックスが10文字を超えて使用することはできません。バージョンV3.Xのハードウェアのカスタムサフィックスは11文字を超えることはできません。



Set Custom Suffix (カスタムサフィックスの設定)

例: カスタムサフィックスを「CODE」に設定する方法

1. ASCII表で「CODE」のHEX値(「CODE」: 43, 4F, 44, 45)を確認します。
2. **Set Custom Prefix** バーコードをスキャンします。
3. 「英数字バーコード (2次元スキャナー)」セクションにある数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル (2次元スキャナー)」セクションにある**Save**バーコードをスキャンします。

ストップキャラクタサフィックス

ストップキャラクタは、データの終わりを示すために使用することができ、その後に何も追加することができないことを意味します。

ストップキャラクタサフィックスを有効化/無効化

ストップキャラクタを有効化/無効化する場合、以下の適切なバーコードをスキャンします。



Enable Terminating Character Suffix
(ストップキャラクタを有効化: 初期設定)



Disable Terminating Character Suffix
(ストップキャラクタを無効化)

ストップキャラクタサフィックスの設定

スキャナーには、ストップキャラクタのサフィックスをCR (0x0D) またはCRLF (0x0D,0x0A) に設定し、以下の適切なバーコードをスキャンして有効化するショートカットが用意されています。



Terminating Character CR (0x0D)
(ストップキャラクタをCR (0x0D)に設定：初期設定)



Terminating Character CRLF (0x0D,0x0A)
(ストップキャラクタをCRLF (0x0D,0x0A)に設定)

ストップキャラクタのサフィックスを設定するには、**Set Terminating Character Suffix** バーコードと、希望するストップキャラクタのHEX値を表す数値バーコードをスキャンし、**Save** バーコードをスキャンします。ストップキャラクタのHEX値については、付録の「ASCII表」を参照してください。

注意：ハードウェアバージョンV3.Xの終端文字サフィックスは、1～7文字を含むことができます。

バージョンV5.X以上のハードウェアのストップキャラクタサフィックスは1～2文字が使用可能です。



Set Terminating Character Suffix (ストップキャラクタサフィックスの設定)

例：ストップキャラクタを「0x0A」(LF)に設定する方法

1. **Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
2. 「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある数字バーコード「0、「A」をスキャンします。
3. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにある**Save** バーコードをスキャンします。

第5章 スキャンに関する設定(2次元スキャナー限定)

概要

本章では、スキャナーをさまざまな用途に合わせて環境設定を行う方法について説明します。例えば、スキャナーの視野を狭くして、ユーザーが意図するバーコードのみを読み取るように設定することができます。

デコード範囲

全体デコード

この機能が有効の場合、スキャナーは中心から周りへ視野内の全てのバーコードを読み取ろうとし、最初にデコードしたバーコードの情報を送信します。



Whole Area Decoding (全体デコード：初期設定)

特定範囲のデコード

本体が、特定のデコード範囲内のバーコードを読み取ろうとし、最初にデコードしたバーコードの情報を送信します。このオプションで本体の視野を絞ることでユーザーが読み取りたいバーコードのみを読み取ることができます。例えば、複数のバーコードが互いに近くにある場合、デコード範囲を適切な範囲のみに絞ってから、特定範囲をデコードすると必要なバーコードのみ読み取ります。



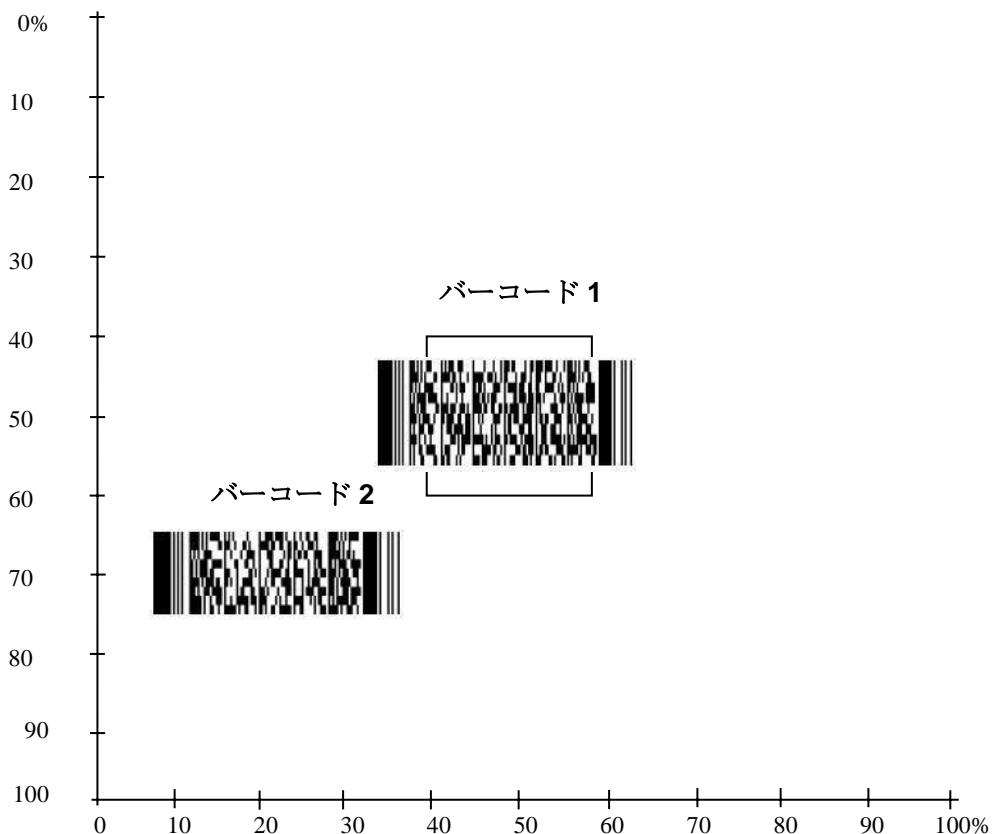
Specific Area Decoding
(特定範囲のデコード)

デコード範囲を指定

Specific Area Decoding（特定範囲のデコード）が有効な場合、スキャナーは事前に指定されたデコード領域と交差するバーコードのみを読み取ります。

初期設定のデコード範囲は、下図のようにスキャナーの視野は上40%、下60%、左40%、右60%の領域です。以下の例では、白い四角形がデコード範囲を表わしています。バーコード1はデコード範囲を通過するため、読み取ることができます。バーコード2はデコードエリアを通過しないため、読み取られません。

デコード範囲は、**Top of Decoding Area**（デコード範囲上）、**Bottom of Decoding Area**（デコード範囲下）、**Left of Decoding Area**（デコード範囲左）、**Right of Decoding Area**（デコード範囲右）のバーコードと、任意のパーセンテージ（0～100）を表す英数字バーコードで定義することができます。





Top of Decoding Area (デコード範囲上)



Bottom of Decoding Area (デコード範囲下)



Left of Decoding Area (デコード範囲左)



Right of Decoding Area (デコード範囲右)

例: デコード範囲を 上20%、下80%、左 20%、右80% に設定する方法

1. **Specific Area Decoding** バーコードをスキャンします。
2. **Top of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。
5. **Bottom of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
6. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」、「0」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。
8. **Left of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
9. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「2」、「0」をスキャンします。
10. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。
11. **Right of Decoding Area** バーコードをスキャンします。
12. 付録の「英数字バーコード（2次元スキャナー）」セクションにある英数字バーコード「8」、「0」をスキャンします。
13. 付録の「バーコードの保存/キャンセル（2次元スキャナー）」セクションにあるSaveバーコードをスキャンします。

第6章 データフォーマッタ

概要

データフォーマッタを使用して、本体の出力を変更できます。例えば、データフォーマッタを使用してバーコードデータの特定の位置に文字を挿入したり、バーコードデータをスキャンする際に特定の文字を抑制/置換/送信したりすることができます。

通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されますが、フォーマットを作成した場合、データを出力する際、フォーマットのプログラミング内で「送信」コマンド（本章の「送信コマンド」の項目を参照）を使用する必要があります。複数のデータフォーマットを本体にプログラムできます。作成可能なデータフォーマットの最大サイズは128文字です。初期設定では、データフォーマッタは無効ですので、必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更後、各フォーマットをクリアして工場出荷状態に戻したい場合は、以下の**Default Data Format**（データフォーマットを初期化）コードをスキャンしてください。



Default Data Format
(データフォーマットを初期化)

データフォーマットを追加

データフォーマットは通常はバーコードデータの編集に使用されます。データフォーマットを作成する際、データフォーマットの4つのラベル（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3）から1つを選択し、データフォーマットの適用範囲（バーコードタイプやデータ長さなど）を指定し、フォーマッタコマンドを含める必要があります。同一のラベルで複数のデータフォーマットを作成できます。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、非一致エラー音（ブザー）が鳴ります（非一致エラーブザーがONの場合）。

データフォーマットのプログラムはバーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるプログラミングの2種類があります。

バーコードによるプログラミング

ここでは、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングに失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字のバーコードは、付録の「英数字バーコード」の項を参照してください。

Step 1: Enter Setup バーコードをスキャンします。



Add Data Format (データフォーマットを追加)

Step 2: データフォーマットを選択します。

ラベル（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3のいずれか）を選択します。

数字のバーコード0～3のいずれかをスキャンして、このデータフォーマットのFormat_0～3のいずれかのラベルを付けます。

Step 3: フォーマッタのコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマッタコマンドの種類を指定します。英数字バーコードの6を読み取ると、フォーマッタコマンドタイプ6が選択されます。詳細は、本章の「フォーマッタコマンドタイプ6」の項目を

参照してください)。

Step 4: インターフェースのタイプを設定します。

各インターフェースに対応する999をスキャンします。

Step 5: シンボロジーIDを設定します。

付録の「シンボロジーID」の項目を参照し、データフォーマットを適用したいシンボロジーのID番号を確認します。シンボロジーIDに該当する3つの英数字バーコードをスキャンします。すべてのシンボロジーのデータフォーマットを作成したい場合は、999をスキャンします。

Step 6: データの長さを設定します。

このシンボロジーで許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す4つの英数字バーコードをスキャンします。9999は、すべての長さに対応するユニバーサルナンバーです。例えば、32文字の場合は「0032」と入力します。

Step 7: フォーマッタコマンドを入力します。

本章の「フォーマッタコマンドタイプ6」の項を参照してください。データ編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。例えば、コマンドがF141の場合は、F141をスキャンします。コマンドは最大112文字です。

Step 8: 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションのSaveバーコードをスキャンしてデータフォーマットを保存します。

例: フォーマッタコマンドタイプ6を使用して、Format_0のデータフォーマットをプログラムします。Code 128には10文字を適用し、すべての文字の後に「A」を付けて送信します。

1. **Add Data Format** バーコードをスキャンします。 データフォーマットを追加します。
2. 「0」 バーコードをスキャンします。 Format_0 を選択します。
3. 「6」 のバーコードをスキャンします。 フォーマッタコマンドタイプ6を選択します。
4. 「9」 のバーコードを3回スキャンします。 これですべてのインターフェースタイプにします。
5. 「002」 のバーコードをスキャンします。 Code 128のみ適用可能です。
6. 「0010」 のバーコードをスキャンします。 10文字までの長さのみ適用可能です。
7. 英数字のバーコード「F141」をスキャンします。 F141 「A」に続くすべての文字を送信(HEX: 41)します。
8. **Save** バーコードをスキャンします。 データフォーマットを保存します。

シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、ホスト機器から送信されるシリアルコマンドによっても作成することができます。コマンド文字列の最大サイズは128文字です。構文は以下の要素で構成されます。

Add Data Format Command: \$\$%^5917 (8 文字)。

Data format (データフォーマット) : 0~3 (1 文字)。0、1、2、3はそれぞれFormat_0、Format_1、Format_2、Format_3を表わしています。

Formatter command type (フォーマットコマンドタイプ) : 「6」、1 文字。

Interface type (インターフェースタイプ) : 「999」、3 文字。

Symbology ID Number (シンボロジーID) : データフォーマットを適用したいシンボロジーのID (3 文字)。999は全てのシンボロジーに対応します。

Data length (データ長さ) : このシンボロジーで許容されるデータの長さ (4 文字)。9999は全ての長さに対応します。例えば、32 文字の場合は「0032」と入力します。

Formatter commands (フォーマッタコマンド) : データの編集に使用するコマンド文字列です。詳細は、本章の「フォーマッタのコマンドタイプ6」の項を参照してください。

注意: データフォーマットを作成するためのシリアルコマンドは、上記の構文に準拠する必要があります。「\r\n\$\$%^OK\r\n」を返した場合は成功、「\r\n\$\$%^ER\r\n」を返した場合は失敗となります。

例: フォーマッタコマンドタイプ6を使用して、Format_0データフォーマットをプログラムすると、Code 128には10 文字が適用され、「A」の前の全ての文字が送信されます。

シリアルコマンド: \$\$%^5917069990020010F141

データフォーマッタを有効化/無効化

データフォーマッタが無効である場合、有効化したデータフォーマットが無効化されます。



**** Disable Data Formatter (データフォーマッタを無効化)**

自分で作成したデータフォーマットにデータを適合させる必要がある場合があります。以下の設定は、作成したデータフォーマットに適用できます。

データフォーマッタを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり（非適合エラー通知ブザーがONの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッタを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます（プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様）。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり（非適合エラー通知ブザーがONの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッタを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。

データフォーマッタを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます（プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様）。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読み取りデータとして送信されます（プリフィックスとサフィックスが有効な場合）。



Enable Data Formatter, Required, Keep Prefix/Suffix
(データフォーマッタを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持)



Enable Data Formatter, Required, Drop Prefix/Suffix
(データフォーマッタを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失)



Enable Data Formatter, Not Required, Keep Prefix/Suffix
(データフォーマッタを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持)



Enable Data Formatter, Not Required, Drop Prefix/Suffix
(データフォーマッタを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失)

非適合エラー通知ブザー

No Non-Match Error Beep (非適合エラー通知ブザー オン) がONの場合、データフォーマットの要件と一致しないバーコードに遭遇した場合、本体はエラーを通知するブザーを鳴らします。



**** Non-Match Error Beep ON**
(非適合エラー通知ブザー オン)



Non-Match Error Beep OFF
(非適合エラー通知ブザー オフ)

データフォーマット選択

データフォーマッタを有効化後、以下の適切なバーコードをスキャンして使用したいデータフォーマットを選択できます。



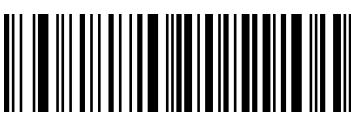
**** Format_0**



Format_1



Format_2



Format_3

シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え

シングルスキャンしてデータフォーマットを切り替えることができます。次のバーコードは、ここで選択したデータ形式でスキャンされ、その後、上で選択した形式に戻ります。

例えば、Format_3として保存したデータ形式を使用するように本体を設定したとします。以下のSingle Scan – Format_1 バーコードをスキャンすると、トリガーを1回引くだけでFormat_1に切り替えることができます。次にスキャンされるバーコードは、Format_1を使用し、その後Format_3に戻ります。

注意：この設定は、本体を電源オフ、デバイスを電源オフまたは再起動すると失われます。



Single Scan – Format_0
(シングルスキャンでFormat_0へ切り替え)



Single Scan – Format_1
(シングルスキャンでFormat_1へ切り替え)



Single Scan – Format_2
(シングルスキャンでFormat_2へ切り替え)



Single Scan – Format_3
(シングルスキャンでFormat_3へ切り替え)

データフォーマットをクリア

全てのデータフォーマットをクリアする場合、以下バーコードをスキャンします。



Clear All (全てクリア)

データフォーマットをクエリ

以下の適切なバーコードをスキャンすると、お客様が作成した、またはメーカーが初期設定したデータフォーマットの情報を得ることができます。例えば、本章の「データフォーマットの追加」の項目の例に従ってFormat_0を追加した場合、Query Current Data Formatsのバーコードをスキャンすると、以下のような結果が得られます。

Data Format0:069990020010F141;.



Query Data Formats (データフォーマットをクエリ)

データフォーマッタコマンドタイプ6

データフォーマッタの操作では、入力データの文字列に沿って仮想カーソルが移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動、データの選択、置き換え、最終出力の挿入に使用されます。コマンドに含まれるASCII文字のHEX値については、付録の「ASCII表」を参照してください。

送信コマンド

F1 全ての文字の送信

構文=F1xx (xx:挿入文字のHEX値)

現在のカーソル位置から始まり、挿入文字が続く入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。

F2 指定の文字数の送信

構文=F2nnxx (nn:文字数を表す数値(00~99)、xx:挿入文字のHEX値)。

出力メッセージに、挿入文字が続く文字数を含める。現在のカーソル位置から開始し、「nn」文字分、または入力メッセージの最後の文字まで続け、その後に文字「xx」が続きます。

F2の例: 指定の文字数の送信



上記のバーコードの最初の10文字を送信し、その後にキャリッジリターンを入力します。

コマンド文字列: **F2100D**

F2は Send a number of characters (指定の文字数の送信) コマンドです。

10 は送信する文字数です。

0D は CR を表す HEX値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890

<CR>

特定文字まで全ての文字を送信

構文=F3ssxx (ss: 特定文字の HEX値、xx: 挿入文字の HEX値)

入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字「ss」に続く文字「xx」が続きますが、それは含まれません。カーソルは「ss」の文字まで進みます。

F3の例: 特定文字まで全ての文字を送信



上記のバーコードを使って、「D」までのすべての文字と、それに続くキャリッジリターンを送信します。

コマンド文字列: **F3440D**

F3はSend all characters up to a particular character (特定文字まで全ての文字を送信) コマンドです。

44は「D」を表すHEX値です。

0DはCRを表すHEX値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890ABC
<CR>

E9 ストップキャラクタを除く全ての文字を送信

構文=E9nn (nn:メッセージの最後に送信しない文字数を示す数値 (00~99))。

現在のカーソル位置から、最後の「nn」文字を除くすべての文字を出力メッセージに含みます。カーソルは、含まれる最後の入力メッセージ文字の1つ前の位置へ移動します。

F4 文字を複数回挿入

構文=F4xxnn (xx:挿入文字のHEX値、nn:送信回数を示す数値 (00-99))。

カーソルを現在の位置に残したまま、出力メッセージに「xx」文字を「nn」回送信します。

E9とF4の例: ストップキャラクタを除くすべての文字と、それに続く2つのタブを送信



上記のバーコードの末尾の8文字を除くすべての文字と、それに続く2つのタブを送信します。

コマンド文字列 : **E908F40902**

E9 はSend all but the last characters (ストップキャラクタを除くすべての文字を送信) コマンドです。

08 は無視する末尾の文字数です。

F4 はInsert a character multiple times (複数回文字を挿入) コマンドです。

09 は水平タブを表す HEX 値です。

02 はタブ文字を送信する回数です。

データは**1234567890AB<tab><tab>**として出力されます。

B3 シンボロジー名を挿入

カーソルを移動させずに、バーコードのシンボロジー名を出力メッセージに挿入します。

B4 バーコードの長さを挿入

カーソルを移動させずに、バーコードの長さを出力メッセージに挿入します。長さは数字の文字列で表され、先頭のゼロは含まれません。

B3、B4 の例 : シンボロジー名と長さの挿入



上記のバーコードからのバーコードデータの前に、シンボロジー名と長さを送信します。これらの挿入をスペースで区切ります。キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列: **B3F42001B4F42001F10D**

B3 はInsert symbology name (シンボロジー名の挿入) コマンドです。

F4 はInsert a character multiple times (複数回文字を挿入) コマンドです。

20 はスペースのHEX値です。

01 はスペース文字の送信回数です。

B4 はInsert barcode length (バーコードの長さを挿入) コマンドです。

F4 は Insert a character multiple times コマンドです。

20 はスペースを表す HEX 値です。

01 はスペース文字の送信回数です。

F1 はSend all characters (全ての文字を送信) コマンドです。

0D は CR の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ
<CR>

移動コマンド

F5 カーソルを特定の文字数分を前に移動

構文=F5nn (nn: カーソルを前方に移動させる文字数を示す数値 (00~99))

現在のカーソル位置から「nn」文字分前にカーソルを移動します。

F5 の例：カーソルを前方に移動してデータを送信



カーソルを 3 文字分前方に移動し、残りのバーコードデータを上記のバーコードから送信します。
最後にキャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列：**F503F10D**

F5はMove the cursor forward a number of characters (カーソルを特定の文字数分を前に移動) コマンドです。

03 はカーソルを移動させる文字数です。

F1 はSend all charactersコマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

4567890ABCDEFGHIJ

<CR>

F6 カーソルを指定の文字数分後ろに移動

構文=F6nn (nn: カーソルを後ろに移動させる文字数を表す数値(00-99))

現在のカーソル位置から 「nn」 文字分後ろにカーソルを移動します。

F7 カーソルを先頭に移動

構文=F7

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。

EA カーソルを最後に移動

構文=EA

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。

検索コマンド**F8 文字列の前方検索**

構文=F8xx (xx: 検索文字の HEX 値)

カーソルが 「xx」 の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から 「xx」 の文字分だけ前方に検索します。

F8 の例： 特定の文字の後から始まるバーコードデータを送信



バーコードで「D」の文字を検索し、「D」を含むその後のデータをすべて送信する。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列：**F844F10D**

F8はSearch forward for a character (文字列の前方検索) コマンドです。

44は「D」のHEX値です。

F1はSend all charactersコマンドです。

0Dは「CR」のHEX値です。

データは以下のように出力されます。

DEFGHIJ

<CR>

F9 文字の後方検索

構文=F9xx(xx : 検索文字の HEX 値)

カーソルが 「xx」 の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から 「xx」 の文字へ遡って検索します。

B0 文字列の前方検索

構文=B0nnnnS (nnnn: 文字列の長さ (9999 まで)、S: 文字列内の各文字の ASCII の HEX 値)

カーソルを文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から 「S」 まで文字列を前方に検索します。

例えば、B0000454657374 は「Test」という 4 文字の文字列の最初の出現箇所を検索します。

B0の例：文字列の後から始まるバーコードデータを送信



バーコードで「FGH」の文字を検索し、「FGH」を含む後のデータをすべて送信します。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列:**B00003464748F10D**

B0は**Search forward for a string**（文字列の前方検索）コマンドです。

0003は文字列の長さ（3文字）です。

46は「F」のHEX値です。

47は「G」のHEX値です。

48は「H」のHEX値です。

F1 はSend all charactersコマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます。

FGHIJ

<CR>

B1 文字列の後方検索

構文=B1nnnnS (nnnn:文字列の長さ(9999まで)、S:文字列中の各文字のASCIIのHEX値)。

カーソルを 文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から 文字列「S」を後方一致検索します。例えば、「B1000454657374」と入力すると、「Test」という4文字の文字列の最初の出現箇所を後方に検索します。

E6 一致しない文字の前方検索

構文=E6xx (xx: 検索文字の HEX 値)

カーソルを 「xx」 でない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の 「xx」 でない文字を前方一致検索します。

E6 の例： バーコードデータの先頭のゼロを削除



この例では、先頭がゼロ埋めされたバーコードを示しています。ゼロを無視して、後に続く全てのデータを送信したいとします。E6は、ゼロではない最初の文字を前方に検索し、その後のすべてのデータを送信し、後にキャリッジリターンが続きます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列：**E630F10D**

E6はSearch forward for a non-matching characterコマンドです。

30は0のHEX値です。

F1はSend all charactersコマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます

37692

<CR>

E7 一致しない文字を後方検索する

構文=E7xx(xx: 検索文字の HEX 値)

カーソルを 「xx」 ではない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の 「xx」 ではない文字を後方に検索し、入力メッセージを検索します。

その他のコマンド

FB 文字数抑止

構文=FBnnxxyy...zz (nn : 抑制する文字数を表す数値 (00~15) 、 xxyy..zz : 抑制する文字のHEX値)

現在のカーソル位置から、他のコマンドでカーソルを進めたときに、最大15種類の異なる文字の出現をすべて抑制します。

FBの例：バーコードデータのスペースを削除



ここでは、データにスペースが含まれているバーコードの例を示しています。データを送信する前に、スペースを削除できます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列: **FB0120F10D**

FBはSuppress charactersコマンドです。

01は抑制する文字の番号でし。

20 はスペースを表す HEX値です。

F1 はSend all charactersコマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます： **34567890**

<CR>

E4 文字の置換

構文=E4nnxx₁xx₂yy₁yy₂...zz₁zz₂：（置換する文字+置換される文字）の合計文字数 xx₁：置換される文字、xx₂：置換する文字、zz₁、zz₂と続く）。カーソルを移動させずに、出力メッセージの15文字までを置き換えることができます。

E4の例: バーコードデータのゼロとCRの置換



バーコードにホストアプリケーションが含めたくない文字がある場合、E4コマンドを使用してそれらの文字を別の文字に置換することができます。この例では、上記のバーコードのゼロをキャリッジリターンに置換します。

コマンド文字列: **E402300DF10D**

E4はReplace characters（文字の置換）コマンドです。

02は置換する文字数に置換される文字数を加えた総文字数（0はCRに置換され、合計文字数は2文字になります）。

30は0のHEX値です。

0DはCRのHEX値(0を置換する文字)です。

F1はSend all charactersコマンドです。

0DはCRのHEX値です。

データは以下のように出力されます**1234**

5678

ABC

<CR>

BA 文字列を他の文字列に置換

構文=BA_{nn}NN₁SS₁NN₂SS₂

nn : 置換する文字列の数。nn=00 または nn>=置換する文字列の出現回数の場合、その文字列の出現回数をすべて置換します。

NN₁: 置換される文字列の長さ、NN₁>0。

SS₁ : 置換される文字列の各文字の ASCII の HEX 値です。

NN₂: 置換される文字列の長さ、NN₂>=0。文字列 「SS₁」 を NUL に置換する（すなわち、文字列 「SS₁」 の削除）には、NN₂を 00 に設定し、SS₂を省略する必要があります。

SS₂: 置換文字列の各文字の ASCII の HEX 値です。

現在のカーソル位置から、「SS₁」 文字列（長さ 「NN₁」 ）の出現箇所を前方検索し、「SS₁」 文字列がすべて置換されるか、カーソルを動かさずに置換回数が 「nn」 回に達するまで、出力メッセージ内の 「SS₂」 文字列（長さ 「NN₂」 ）と置換します。

BA の例: 「23」 をバーコードデータの「ABC」 と置換



cd123abc23bc12ab232

ホストアプリケーションが含めたくない文字列がバーコードに存在する場合、BA コマンドでその文字列を別の文字列に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードの 「23」 を 「ABC」 に置き換えます。

コマンド文字列: **BA0002323303414243F100**

BA は **Replace a string with another** (文字列を他の文字列に置換) コマンドです。

00 は置換する文字列の数、00 はその文字列のすべてを置換することを意味します。

02 は置換される文字列の長さです。

32 は 2 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

33 は 3 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

03 は置換後の文字列の長さです。

41 は A (置換文字列中の文字) の HEX 値です。

42 は B (置換文字列中の文字) の HEX 値です。

43 は C (置換文字列中の文字) の HEX 値です

F1 は Send all characters コマンドです。

00 は NUL の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

cd1ABCabcABCcbc12abABC2

BA の例: バーコードデータに最初の「23」の発生だけを除去

バーコードにホストアプリケーションが削除したい文字列がある場合、BAコマンドで文字列をNULに置き換えることができます。この例では、上記のバーコードで最初に出現する「23」を削除します。

コマンド文字列: **BA0102323300F100**

BA は Replace a string with another コマンドです。

01 は 置換する文字列の数です。

02 は 置換される文字列の長さです。

32 は 2 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

33 は 3 (置換される文字列の文字) の HEX 値です。

00 は 置換する文字列の長さ、00 は 置換する文字列を NUL で置換することを意味します。

F1 は Send all characters コマンドです。

00 は NUL の HEX 値です。

データは以下のように出力されます。

cd1abc23bc12ab23

第7章 バッチプログラミング

概要

バッチプログラミングでは、コマンドのバッチを1つのバッチバーコードに統合することができます。

バッチプログラミングのルールを以下に示します。

1. コマンドフォーマット：コマンド+パラメータ値。
2. 各コマンドはセミコロン（;）で終了します。コマンドとその終端のセミコロンの間にはスペースがありません。
3. バーコード生成ソフトウェアを使用して、2Dバッチバーコードを生成します。

例 **Scan Mod**（コマンド：\$%^7400）、**Inter-Keystroke Delay for USB HID-KBW=50ms**（コマンド：\$%^225350）、**Disable Delete and Function Button**（コマンド：\$%^8001）のバッチバーコードを作成

1. コマンドを入力します。

```
$%^7400;$%^225350;$%^8001;
```

2. バーコードを生成します。

上記の構成で本体を設置する場合、**Enable Batch Barcode** バーコードをスキャンしてから、生成されたバッチバーコードをスキャンします。



Enable Batch Barcode
(バッチバーコードを有効化)

全てのコマンドは、NLSBS80_Serial_Programming_Commands_V1.0を参照してください。

付録

工場出荷時設定表

パラメータ	工場出荷時設定	備考
システム		
1次元スキャナー		
スキャンモード	Trigger Mode	
感度	Medium	
2次元スキャナー		
スキャンモード	Trigger Mode	
感度	Medium	
グッドリードタイムアウト	Pause after Good Read	
デコード間タイムアウト(同じバーコード)	Disable	
リセットタイムアウト	off	
1次元スキャナー&2次元スキャナー		
操作モード	Bluetooth mode	
Bluetoothプロファイル	HID	
Bluetooth経由のデータ送信	Synchronous transmission	
USB インターフェースタイプ	USB HID-KBW	
USB経由のデータ送信	Asynchronous transmission	
データ受信の検証	Disabled	
ブザー通知	Enabled	
バイブレーション通知	Disabled	
Bluetoothデバイス名	「BS80+」（後に4文字のMACアドレス付き）	
無効なホストデータへの返信	Enabled	
バーコードセパレーター	Disabled, None	
パケットモード	Disabled	
ACK/NAK 再試行カウント	2	
ACK/NAK タイムアウト	200ms	
自動電源オフタイマー	30 minutes	
製品シリアル番号	Disabled	
タイムスタンプ	Disabled	

データフォーマット	Format 3: yyyy/mm/dd	
キーボードタイプ	US English	USB HID-KBW/ BT HID
文字エンコード	ISO-8859-1	USB HID-KBW/ BT HID
文字転換	No case conversion	USB HID-KBW/ BT HID
Emulate ALT +キーパッド	Disabled	USB HID-KBW/ BT HID
ファンクションキーマッピング	Disabled	USB HID-KBW/ BT HID
テンキーのエミュレート	Disabled	USB HID-KBW/ BT HID
コードページ	Windows 1252 (Latin I)	USB HID-KBW/ BT HID
Bluetooth HID用インターチャラクタディレイ	15ms	BT HID
USB HID-KBW用インターチャラクタディレイ	0ms	USB HID-KBW

パラメータ	工場出荷時設定	備考
プリフィックス & サフィックス		
1次元シーケンス		
プリフィックスシーケンス	Code ID+Custom Prefix+AIM ID	
AIM ID プリフィックス	Disabled	
Code ID プリフィックス	Disabled	英字1～2文字
カスタムプリフィックス	Disabled	
	None	最大: 11 文字
カスタムサフィックス	Disabled	
	None	最大: 11 文字
ストップキャラクタサフィックス	Disabled	
	None	最大: 7 文字
2次元スキャナー		
プリフィックスシーケンス	Custom Prefix+Code ID+AIM ID	
カスタムプリフィックス	Disabled	
	None	最大: 11 文字
AIM ID プリフィックス	Disabled	
Code ID プリフィックス	Disabled	英字1～2文字
カスタムサフィックス	Disabled	
	None	最大: 11 文字
ストップキャラクタサフィックス	Enabled	
	0x0D (CR)	最大: 7 文字
スキャンに関する設定(2次元スキャナー限定)		
デコード範囲	Whole Area Decoding	
特定範囲のデコード	40% top, 60% bottom, 40% left, 60% right	
データフォーマット		
データフォーマット	Disabled	
データフォーマット	Format_0	
非適合エラー通知ブザー	On	

パラメータ	工場出荷時設定	備考
シンボロジー		
1次元スキャナー		
<i>Code 128</i>		
Code 128	Enabled	
最大長さ	255	
最小長さ	1	
<i>UCC/EAN-128</i>		
UCC/EAN-128	Enabled	
最大長さ	255	
最小長さ	1	
<i>AIM 128</i>		
AIM 128	Disabled	
最大長さ	255	
最小長さ	1	
<i>EAN-8</i>		
EAN-8	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
EAN-8 + 2桁のアドオンコードのみデコード	Disabled	
EAN-8 + 5桁のアドオンコードのみデコード	Disabled	
Extend to EAN-13	Disabled	
Convert to EAN-13	Disabled	
<i>EAN-13</i>		
EAN-13	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
EAN-13 + 2桁のアドオンコードのみデコード	Disabled	
EAN-13 + 5桁のアドオンコードのみデコード	Disabled	
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	

378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	
ISSN		
ISSN	Disabled	
ISBN		
ISBN	Disabled	
ISBN フォーマット	ISBN-13	
UPC-E		
UPC-E	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
UPC-A + 2桁のアドオンコードのみデコード	Disabled	
UPC-A + 5桁のアドオンコードのみデコード	Disabled	
UPC-Aへ拡張	Disabled	
UPC-Aへ変換	Disabled	
システムキャラクタ	Do not transmit	
国別コード	Do not transmit	
UPC-A		
UPC-A	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
UPC-A + 2桁のアドオンコードのみデコード	Disabled	

UPC-A + 5桁のアドオンコード のみデコード	Disabled	
システムキャラクタ	Transmit	
国別コード	Do not transmit	
インタリープド2 of 5		
インタリープド2 of 5	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	2以上
ITF-6		
ITF-6	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
ITF-14		
ITF-14	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
Deutshe 14		
Deutshe 14	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
Deutshe 12		
Deutshe 12	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
COOP 25 (日本仕様Matrix 2 of 5)		
COOP 25	Disabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	3以上
Matrix 25 (欧州仕様Matrix 2 of 5)		
Matrix 25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	3以上
インダストリアル25		

インダストリアル25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	4以上
スタンダード25		
スタンダード25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	4以上
Code 39		
Code 39	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Transmit	
Code 39 フルアスキー	Enabled	
Code 32	Disabled	
Code 32 プリフィックス	Disabled	
Code 32 チェックキャラクタ	Do not transmit	
Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	4	1以上
Codabar		
Codabar	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	ABCD/ABCD format Transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	4	2以上
Code 93		
Code 93	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	

チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	2	1以上

Code 11

Code 11	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
チェックキャラクタ検証	Enabled 1 Check Character, MOD11	
最大長さ	255	
最小長さ	4	3以上

Plessey

Plessey	Disabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	4	4以上

MSI-Plessey

MSI-Plessey	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
チェックキャラクタ検証	Enabled 1 Check Character, MOD10	
最大長さ	255	
最小長さ	4	4以上

GS1 Databar (RSS)

GS1 Databar	Enabled	
最大長さ	255	
最小長さ	1	

2次元スキャナー

白黒反転バーコード	Decode all regular 2D barcodes only	
-----------	--	--

Code 128

Code 128	Enabled	
最大長さ	127	
最小長さ	1	

GS1-128 (UCC/EAN-128)

GS1-128	Enabled	
最大長さ	127	
最小長さ	1	
AIM 128		
AIM 128	Enabled	
最大長さ	127	
最小長さ	1	
EAN-8		
EAN-8	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
EAN-13へ拡張	Disabled	
EAN-13		
EAN-13	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用

ISSN		
ISSN	Disabled	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
ISBN		
ISBN	Enabled	
ISBN フォーマット	ISBN-13	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
UPC-E		
UPC-E	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
Extend to UPC-A	Disabled	
システムキャラクタ 「0」	Transmit	
UPC-A		
UPC-A	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
システムキャラクタ	Transmit	
国別コード	Do not transmit	
インタリープド2 of 5		
インタリープド 2 of 5	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	2以上
ITF-6		
ITF-6	Disabled	

チェックキャラクタ	Do not transmit	
ITF-14		
ITF-14	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
Deutshe 14		
Deutshe 14	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
Deutshe 12		
Deutshe 12	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
COOP 25 (日本仕様 Matrix 2 of 5)		
COOP 25	Disabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	
Matrix 25 (欧州仕様 Matrix 2 of 5)		
Matrix 25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	3以上
インダストリアル25		
インダストリアル25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	4以上
スタンダード25		
スタンダード25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	6	4以上
Code 39		

Code 39	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Transmit	
Code 39 フルアスキー	Enabled	
Code 32	Disabled	
Code 32 プリフィックス	Disabled	
Code 32 チェックキャラクタ	Do not transmit	
Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	4	1以上
<i>Codabar</i>		
Codabar	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	ABCD/ABCD format Transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	4	2以上
<i>Code 93</i>		
Code 93	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	2	1以上
<i>Code 11</i>		
Code 11	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
チェックキャラクタ検証	Enabled 1 Check Character, MOD11	
最大長さ	255	
最小長さ	4	3以上
<i>Plessey</i>		
Plessey	Disabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	

チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	255	
最小長さ	4	4以上
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
チェックキャラクタ検証	Enabled 1 Check Character, MOD10	
最大長さ	255	
最小長さ	4	4以上
GS1 Databar (RSS)		
GS1 Databar	Enabled	
最大長さ	255	
最小長さ	1	

パラメータ	工場出荷時設定	備考
2次元スキャナー		
白黒反転バーコード	Decode all regular 2D barcodes only	全てのシンボロジーに適用
Code 128		
Code 128	Enabled	
最大長さ	127	
最小長さ	1	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	Enabled	
最大長さ	127	
最小長さ	1	
AIM 128		
AIM 128	Enabled	
最大長さ	127	
最小長さ	1	
EAN-8		
EAN-8	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
EAN-13を拡張	Disabled	
EAN-13		
EAN-13	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
290で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
378または379で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
414または419で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用

434または439で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
977で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
978で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
979で始まるEAN-13バーコードのアドオンコードをリクエスト	Do Not Require Add-On Code	BS8060-2T用
ISSN		
ISSN	Disabled	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
ISBN		
ISBN	Enabled	
ISBNフォーマット	ISBN-13	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
UPC-E		
UPC-E	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
UPC-Aを拡張	Disabled	
システムキャラクタ「0」	Transmit	
UPC-A		
UPC-A	Enabled	
チェックキャラクタ	Transmit	
2桁のアドオンコード	Disabled	
5桁のアドオンコード	Disabled	
アドオンコードのリクエスト	Not required	
システムキャラクタ	Transmit	
国別コード	Do not transmit	

インターブド2 of 5		
インターブド 2 of 5	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	100	
最小長さ	6	
ITF-6		
ITF-6	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
ITF-14		
ITF-14	Enabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	Disabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	127	
最小長さ	6	
インダストリアル25		
インダストリアル25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	127	
最小長さ	6	
スタンダード25		
スタンダード25	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	127	
最小長さ	6	
Code 39		
Code 39	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
スタートキャラクタ/トップキャラクタ	Do not transmit	

Code 39 フルアスキー	Enabled	
Code 32	Disabled	BS8060-2T用
Code 32 プリフィックス	Disabled	BS8060-2T用

Code 32 チェックキャラクタ	Do not transmit	BS8060-2T用
Code 32 スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	BS8060-2T用
最大長さ	127	
最小長さ	2	

Codabar

Codabar	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Disabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ	Do not transmit	
スタートキャラクタ/ストップキャラクタ Format	ABCD/ABCD	
最大長さ	127	
最小長さ	2	

Code 93

Code 93	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	127	
最小長さ	3	

Code 11

Code 11	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	1 check character, MOD11
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	127	
最小長さ	2	

Plessey

Plessey	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	127	
最小長さ	1	

MSI-Plessey		
MSI-Plessey	Enabled	
チェックキャラクタ検証	Enabled 1 check character, MOD10	
チェックキャラクタ	Do not transmit	
最大長さ	127	
最小長さ	2	
PDF417		
PDF417	Enabled	
最大長さ	2710	
最小長さ	1	
PDF 417 ツインコード	Read single PDF417 only	
QR Code		
QR Code	Enabled	
Micro QR	Disabled	
最大長さ	7089	
最小長さ	1	
QR ツインコード	Read single QR only	
データマトリックス		
データマトリックス	Enabled	
長方形バーコードs	Enabled	
ミラーメージs	Decode	
最大長さ	3116	
最小長さ	1	
DM ツインコード	Read single DM only	
Chinese Sensible コード		
Chinese Sensible コード	Disabled	
最大長さ	7827	
最小長さ	1	

英数字バーコード (1次元スキャナー)

0 ~ 9



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9

A ~ F



A



B



C



D



E



F

英数字バーコード (2次元スキャナー)

0 ~ 9



0



5



1



6



2



7



3



8



4



9

A ~ F



A



B



C



D



E



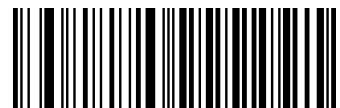
F

英数字バーコード

0 ~ 9



0



5



1



6



2



7



3



8



4



9

A ~ F



A



B



C



D



E



F

バーコードを保存/キャンセル (1次元スキャナー)

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、**Save** バーコードをスキャンする必要があります。間違った桁をスキャンした場合は、**Cancel** バーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、**Delete the Last Digit** バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または**Delete All Digits** バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例：最大長さ（最大長さ）のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

★**Delete the Last Digit**（最後の桁を削除）：最後の桁の「3」が削除されます。

★**Delete All Digits**（全ての桁を削除）：数字「123」が全て削除されます。

★**Cancel**（キャンセル）：最大長さの設定がキャンセルされます。また、スキャナーはまだセットアップモードのままでです。



Save (保存)



Cancel (キャンセル)



Delete the Last Digit (最後の桁を削除)



Delete All Digits (全ての桁を削除)

バーコードを保存/キャンセル(2次元スキャナー)

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、**Save** バーコードをスキャンする必要があります。間違った桁をスキャンした場合は、**Cancel** バーコードをスキャンして設定を最初からやり直すか、**Delete the Last Digit** バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または**Delete All Digits** バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例：最大長さ（最大長さ）のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

★**Delete the Last Digit**（最後の桁を削除）：最後の桁の「3」が削除されます。

★**Delete All Digits**（全ての桁を削除）：数字「123」が全て削除されます。

★**Cancel**（キャンセル）：最大長さの設定がキャンセルされます。また、スキャナーはまだセットアップモードのままでです。



Save（保存）



Delete All Digits（全ての桁を削除）



Delete All Digits（全ての桁を削除）



Cancel（キャンセル）

保存/キャンセルバーコード



Save (保存)



Cancel (キャンセル)



Delete the Last Digit (最後の桁を削除)



Delete All Digits (全ての桁を削除)

AIM ID 表(2次元スキャナー)

シンボロジー	AIM ID	可能な AIM ID 修飾子 (m)
Code 128	JC0	
UCC/EAN-128	JC1	
AIM 128	JC2	
ISBT 128	JC4	
EAN-8	JE4	
EAN-13	JE0	
アドオンコード付きEAN-13	JE3	
ISSN	JX0	
ISBN	JX0	
UPC-E	JE0	
アドオンコード付きUPC-E	JE3	
UPC-A	JE0	
アドオンコード付きUPC-A	JE3	
インタリーブド 2 of 5	JIm	0,1,3
ITF-6	JIm	1,3
ITF-14	JIm	1,3
Deutsche 14	JX0	
Deutsche 12	JX0	
COOP 25 (日本仕様 Matrix 2 of 5)	JX0	
Matrix 2 of 5 (欧州仕様Matrix 2 of 5)	JX0	
インダストリアル25	JS0	
スタンダード25	JR0	
Code 39	JAm	0,1,3,4,5,7
Codabar	JFm	0,2,4
Code 93	JG0	
Code 11	JHm	0,1,3
Plessey	JP0	
MSI-Plessey	JMm	0,1
GS1 Databar	Je0	
PDF417	JLm	0,1,2
MicroPDF417	JLm	3,4,5

注意: 「m」は AIM修飾子の文字を表しています。ISO/IEC 15424:2008 情報技術 - 自動認識およびデータキャプチャ技術 - AIM修飾文字詳細のためのデータキャリア識別子（シンボロジー修飾子含む）。

シンボロジー	AIM ID	備考
EAN-13]E0	標準のEAN-13
]E3	EAN-13 + 2/5桁のアドオンコード
EAN-8]E4	標準のEAN-8
]E4...:]E1...	EAN-8 + 2桁のアドオンコード
]E4...:]E2...	EAN-8 + 5桁のアドオンコード
UPC-E]E0	標準のUPC-E
]E3	UPC-E + 2/5-Digitアドオンコード
UPC-A]E0	標準のUPC-A
]E3	UPC-A + 2/5-桁のアドオンコード
Code 128]C0	標準のCode 128
GS1-128 (UCC/EAN-128)]C1	FNC1はスタートキャラクタの直後の文字
AIM-128]C2	FNC1はスタートキャラクタから2文字後ろ
ISBT-128]C4	標準のEAN-13
インターリード 2 of 5]I0	EAN-13 + 2/5桁のアドオンコード
]I1	標準のEAN-8
]I3	EAN-8 + 2桁のアドオンコード
ITF-6]I1	チェックキャラクタを送信
]I3	チェックキャラクタを送信しない
ITF-14]I1	チェックキャラクタを送信
]I3	チェックキャラクタを送信しない
Industrial 2 of 5]S0	指定なし
Standard 2 of 5]R0	チェックキャラクタ検証なし
]R8	MOD10、チェックキャラクタを送信送信しない
]R9	MOD10、チェックキャラクタを送信
Code 39]A0	バーコードをそのまま送信、フルアスキー無効、チェックキャラクタ検証なし
]A1	MOD43、チェックキャラクタを送信
]A3	MOD43、チェックキャラクタを送信しない
]A4	フルアスキー有効、チェックキャラクタ検証なし
]A5	フルアスキー有効、チェックキャラクタを送信
]A7	フルアスキー有効、チェックキャラクタを送信しない
Codabar]F0	標準のCodabar
]F2	検証後、チェックキャラクタを送信する
]F4	検証後、チェックキャラクタを送信しない
Code 93]G0	標準のコード93

シンボロジー	AIM ID	備考
Code 11	JH0	MOD11、チェックキャラクタを送信
	JH1	MOD11/MOD11、チェックキャラクタ送信
	JH3	検証後、チェックキャラクタを送信しない
	JH9	チェックキャラクタ検証なし
GS1-DataBar (RSS)	Je0	標準のGS1-DataBar
Plessey	JP0	標準のPlessey
MSI-Plessey	JM0	MOD10、チェックキャラクタを送信
	JM1	MOD10、チェックキャラクタを送信しない
	JM7	MOD10/ MOD11、チェックキャラクタを送信しない
	JM8	MOD10/ MOD11、チェックキャラクタを送信
	JM9	チェックキャラクタ検証なし
Matrix 2 of 5	JX0	メーカー指定
	JX1	チェックキャラクタ検証なし
	JX2	MOD10、チェックキャラクタ送信
	JX3	MOD11、チェックキャラクタを送信しない
ISBN	JX4	標準のISBN
ISSN	JX5	標準のISSN
PDF417	JL0	1994年版PDF417規格に準拠
Data Matrix	Jd0	EC000～ECC140
	Jd1	ECC200
	Jd2	ECC200、FNC1 はスタートキャラクタから 1 文字目または 5 文字目
	Jd3	ECC200、FNC1 はスタートキャラクタから 2 文字目または 6 文字目
	Jd4	ECC200、ECIを含む
	Jd5	ECC200、FNC1がスタートキャラクタから1文字目または5文字目、ECI含む
	Jd6	ECC200、FNC1がスタートキャラクタから2文字目または6文字目、ECIを含む
QR Code	JQ0	QR1
	JQ1	2005年版、ECIを除く
	JQ2	2005年版、ECIを含む
	JQ3	QRコード2005、ECIを除く、FNC1がスタートキャラクタ後の1文字目。
	JQ4	QRコード2005、ECIを含む、FNC1がスタートキャラクタ後の1文字目。
	JQ5	QRコード2005、ECIを除く、FNC1がスタートキャラクタ後の2文字目。
	JQ6	QRコード2005、ECIを含む、FNC1がスタートキャラクタ後の2文字目。
Chinese Sensibleコード	JX0	

参考：ISO/IEC 15424:2008 情報技術 - 自動認識およびデータキャプチャ技術 - データキャリア

識別子（シンボロジー識別子を含む）。

Code ID 表(1次元スキャナー)

バーコード	Code ID
Code 128	j
UCC/EAN-128	u
AIM 128	f
EAN-8	g
EAN-13	d
ISSN	n
ISBN	B
UPC-E	h
UPC-A	c
インタリーブド 2 of 5	e
ITF-6	r
ITF-14	q
Deutsche 14	w
Deutsche 12	l
COOP 25 (日本仕様 Matrix 2 of 5)	o
Matrix 2 of 5 (欧州仕様Matrix 2 of 5)	v
インダストリアル25	i
スタンダード25	s
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	y
Code 11	z
Plessey	p
MSI-Plessey	m
GS1 Databar	R

Code ID 表 (2次元スキャナー)

バーコード	Code ID
Code 128	j
GS1-128(UCC/EAN-128)	j
AIM-128	f
EAN-8	d
EAN-13	d
ISSN	n
ISBN	B
UPC-E	c
UPC-A	c
インタリーブード 2 of 5	e
ITF-6	e
ITF-14	e
Matrix 2 of 5	v
Industrial 2 of 5	D
Standard 2 of 5	s
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
Code 11	H
Plessey	p
MSI-Plessey	m
GS1 Databar	R
PDF417	r
QR Code	Q
Data Matrix	u
Chinese Sensibleコード	h

ASCII 表

Hex	Dec	記号
00	0	NUL (NUL文字)
01	1	SOH (ヘッダ開始)
02	2	STX (テキストの開始)
03	3	ETX (テキストの終わり)
04	4	EOT (送信の終了)
05	5	ENQ (問い合わせ)
06	6	ACK (確認応答)
07	7	BEL (ベル)
08	8	BS (バックスペース)
09	9	HT (ホリゾンタルタブ)
0a	10	LF (ラインフィード)
0b	11	VT (垂直タブ)
0c	12	FF (フォームフィード)
0d	13	CR (キャリッジリターン)
0e	14	SO (シフトアウト)
0f	15	SI (シフトイン)
10	16	DLE (データリンクエスケープ)
11	17	DC1 (XON) (デバイスコントロール1)
12	18	DC2 (デバイスコントロール2)
13	19	DC3 (XOFF) (デバイスコントロール3)
14	20	DC4 (デバイスコントロール4)
15	21	NAK (否定応答)
16	22	SYN (同期アイドル)
17	23	ETB (トランスマネージャーの終了)
18	24	CAN (キャンセル)
19	25	EM (エンドオブメディア)
1a	26	SUB (サブステイティート)
1b	27	ESC (エスケープ)
1c	28	FS (ファイルセパレータ)
1d	29	GS (グループセパレータ)

Hex	Dec	記号
1e	30	RS (送信要求)
1f	31	US (ユニットセパレーター)
20	32	SP (スペース)
21	33	! (エクスクラメーションマーク)
22	34	" (ダブルクオーテーション)
23	35	# 数字記号
24	36	\$ (ドル記号)
25	37	% (パーセント)
26	38	& (アンド記号)
27	39	(シングルクオート)
28	40	((左/開始括弧)
29	41) (右/閉じ括弧)
2a	42	* (アスタリスク)
2b	43	+ (プラス)
2c	44	, (コンマ)
2d	45	- (マイナス/ダッシュ)
2e	46	. (ドット)
2f	47	/ (前スラッシュ)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (コロン)
3b	59	; (セミコロン)
3c	60	< (不等号<)
3d	61	= (等号)

Hex	Dec	記号
3e	62	> (不等号>)
3f	63	? (疑問符)
40	64	@ (アットマーク)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(左/ブラケット)
5c	92	\ (バックスラッシュ)
5d	93] (右/閉じブラケット)

Hex	Dec	記号
5e	94	^ (キャレット/サーカムフレックス)
5f	95	_ (アンダースコア)
60	96	' (グレイヴ・アクセント)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (左/波括弧)
7c	124	(垂直バー)
7d	125	} (右/波閉じ括弧)
7e	126	~ (チルダ)
7f	127	DEL (削除)

ASCII ファンクションキーマッピング 表

ASCII 制御文字略号	ASCII コード(HEX値)	ファンクションキーマッピング無効化	Ctrl+ASCII
NUL (ヌル文字)	00	Null	Ctrl+@
SOH (ヘッダ開始)	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX (テキストの開始)	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX (テキストの終わり)	03	ALT	Ctrl+C
EOT (送信終了)	04	Null	Ctrl+D
ENQ (問い合わせ)	05	CTRL	Ctrl+E
ACK (確認応答)	06	Null	Ctrl+F
BEL (ベル)	07	Enter	Ctrl+G
BS (バックスペース)	08	左矢印	Ctrl+H
HT (ホリゾンタルタブ)	09	水平タブ	Ctrl+I
LF (ラインフィード)	0A	下矢印	Ctrl+J
VT (垂直タブ)	0B	垂直タブ	Ctrl+K
FF (フォームフィード)	0C	Delete	Ctrl+L
CR (キャリッジリターン)	0D	Enter	Ctrl+M
SO (シフトアウト)	0E	Insert	Ctrl+N
SI (シフトイン)	0F	Esc	Ctrl+O
DLE DLE (データリンクエスケープ)	10	F11	Ctrl+P
DC1 (XON) (デバイスコントロール1)	11	Home	Ctrl+Q
DC2 (デバイスコントロール2)	12	Print Screen	Ctrl+R
DC3 (XOFF) (デバイスコントロール3)	13	Backspace	Ctrl+S
DC4 (デバイスコントロール4)	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK (否定応答)	15	F12	Ctrl+U
SYN (同期アイドル)	16	F1	Ctrl+V
ETB (トランスマップの終了)	17	F2	Ctrl+W
CAN (キャンセル)	18	F3	Ctrl+X
EM (エンドオブメディア)	19	F4	Ctrl+Y
SUB (サブスティテュート)	1A	F5	Ctrl+Z
ESC (エスケープ)	1B	F6	下表参照
FS (ファイルセパレータ)	1C	F7	
GS (グループセパレータ)	1D	F8	
RS (送信要求)	1E	F9	

US (ユニットセパレーター)	1F	F10	
-----------------	----	-----	--

ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)

前表の最後の5文字のファンクションキーのマッピングは、キーボードレイアウトによって異なります。

国/キーボード	ファンクションキーマッピング				
	1B	1C	1D	1E	1F
アメリカ	Ctrl+[Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
ベルギー	Ctrl+[Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
スウェーデン	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
フランス	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl+=
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-
イタリア		Ctrl+\	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-
スイス		Ctrl+<	Ctrl+..	Ctrl+6	Ctrl+-
イギリス	Ctrl+[Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
デンマーク	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
ノルウェー	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
スペイン	Ctrl+[Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-

Symbology ID Number

Symbology	ID Number
Code 128	002
UCC/EAN-128	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
インターブード 2 of 5, Febraban	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39, Code 32	013
Codabar	015
Code 93	017
AIM-128	020
COOP 25	022
ISSN	023
ISBN	024
インダストリアル25	025
スタンダード25	026
Plessey	027
Code 11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Databar	031
PDF417	032
QR Code	033
Data Matrix	035
Chinese Sensibleコード	039
Deutsche 14	128
Deutsche 12	129

Newland AIDC

📍 No.1 Rujiang West Rd., Mawei, Fuzhou, Fujian 350015, China

☎ +86-591-83979500

✉ info@nlscan.com

🌐 www.newlandaidc.com

Asia Pacific

Japan:

住所: 〒108-0075
東京都港区港南1丁目9-3 6
アレア品川ビル13階407
電話: 03-4405-3222
メール: info@nlscan.com

Korea:

Add: Biz. Center Best-one, Jang-eun Medical
Plaza 6F, Bojeong-dong 1261-4, Kihung-gu,
Yongin-City, Kyunggi-do, South Korea
Tel: +82 10 8990 4838
Email: info@nlscan.com

India:

Add: 416 & 417, Tower C, NOIDA ONE
business park, B-8, Sector 62, Noida,
Uttar Pradesh - 201301
Tel: +91 120 3508102
Email: info@nlscan.com

Taiwan:

Add: 7F-6, No. 268, Liancheng Rd.,
Jhonghe Dist. 235, New Taipei City,
Taiwan
Tel: +886 2 7731 5388
Email: info@nlscan.com

Indonesia:

Add: Eightyeight@kasablanka Tower A 12th
Floor Unit A&H, Jl. Casablanca Raya Kav. 88,
Jakarta Selatan 12870
Tel: +62 8161157247
Email: info@nlscan.com

Europe & Middle East & Africa

Add: Rolweg 25, 4104 AV Culemborg, The Netherlands

Tel: +31 (0) 345 87 00 33

Web: www.newland-id.com

Email: sales@newland-id.com

Tech Support: tech-support@newland-id.com

North America

Add: 46559 Fremont Blvd., Fremont, CA 94538, USA

Tel: +1 510 490 3888

Email: info@nlscan.com

Latin America

Tel: +1 239 598 0068

Email: Info@NewlandLA.com

Chile:

Tel: +56 9 9337 3177

Email: Chile@NewlandLA.com

Mexico, Central America & Caribbean:

Tel: +52 155 5432 9079

Email: Mexico@NewlandLA.com

Brazil:

Tel: +55 35 9767 6078

Email: Info@NewlandLA.com

Colombia:

Tel: +57 319 387 4484

Email: Colombia@NewlandLA.com

